此間に立つて眞摯に且つ妙策を編み出し折角女房役を勤めるに基因する、◇……彼れは英明の才能を持つた新進の士である、組織的な頭腦に正宗の如き切れ味のある智腦を併有し然も頗る如才ない男である、而して表面著るしく君子肌の樣式を保有して言はゞ山座式の外交官型だ、接客萬來甚だ多忙であるがそれでも悠々迫らずに萬般の企圖計畫を試みて行く、然も度量が馬鹿に奥深いので一種異樣の禦制力を伴つて居るのだ、勿論彼れも人間であるから未だ年壯の缺陷は相當にある、併し其慧敏な自制を以て巧みに包んで圓熟を心がけて行く爲め更に目觸りとならないのだ、宜なり彼れは大電の内務大臣と仇名されつゝ將來財界に飛び出すべく雌伏する男であるから尋常一樣の轍を履まないのである、◇……彼れは純粹の江戸ッ兒、明治四十三年早稲田太學商科出身後大阪電燈に入り累進した男で著述を屢々試みる最近の著、電氣大觀などは專門家を瞠着せしめる雄大なものである

經理部長　田中俊逸君

は大阪府南河内郡狭山村に生る明治四十四年七月關西大學商業科卒業し四十五年三月當社に入社大正七年秘書に任ぜられ、八年十一月經理課長心得となり同九年六月現職に就く

社長秘書　關　淺吉君

◇……才士に佳人は附物として古來から數へられて來た、只恨むらくは多く不遇を背景としてので有名であつた、宮崎君の偉物を以て須らく佳人無かるべからずいやさ確かにある事は否定され無い、關西事業界の巨頭として覇を唱へる、君には亦彩の象に離れぬ樣に附いて居る人がある、それは外でも無い此の關君である、君は宮崎君の腰巾着として何處までも佳人たる地位を保つて居るのだ、

◇……關君が佳人だからとあつて紅顔の美少年であると連想するのは當ら無い、君は昔を偲ぶ面影を殘す好男子であるが年の瀬やしかく年々齢を重ねて行くのである、現在の君は四十代の壯者であるから頗る分別盛りの人である、一意專心宮崎御大の爲めに忠勤を拔んでる眞摯さは蓋し人の及ばぬ所と謂へる、此の心と心の連鎖を假定して佳人と呼ばざ

るを得ないのだ、◇……君は寧ろ靜的方面に特長を持つて居る、動的部面に花々しき活躍を試みるよりは帷幄にあつてコツ〳〵と策劃を廻らし事務を消化して行く方が得意なのである、從つて宮崎君の如き動亦動常に停止する所を知らぬ猛者には是非なくてならぬ女房である、殊に君は直情徑行の嚴肅な素質を帶びて居るから遠慮會釋なく是は〻非は非と判別して建言をする、◇……從つて普通一般實れ殘りの腰巾着と違つて硬骨と單調とを以て男振りを上げて居るのだ理窟ぬかす奴勝手にぬかせ俺れには俺れの腹があると云つた調子が君の全體を說明する氣分である、それで寡默を守り着々と我が信念を行つて居る、苟も君の行く所は毫末の誤りがない、練りに練つた舉句乘り出すのであるから左もあるべき所だ、◇……君が大電會社に於けるや秘書役と云ふのである、蓋し適材適所の讃辭を購ふに足ると信ずる、從順なる事夫れ羊の如く思索を怠らぬ事秒刻の時計の如きものである、而して與へられた職分に對する精勵振りは靜閑として宛ら人なきが如く不亂に勉める、一度始めた仕事は何等か鳧をつけねば如何なる故障が突發しても平氣の平左で進めて居るから驚いて終ふ、君は四國の人明治十年五月香川縣三豐郡觀音寺町に生れ故山の中學を終へて東京に遊學し三十八年七月早稲田大學政治經濟科を卒業し四十四年大阪土地建物株式會社の創立に從事したのである、△此の頃宮崎君は私かに囑望する所あつて關君を引き立てたのである、爾來純然たる宮崎系となり大正十年三月現職に就いた、

調査課長　大西義夫君

◇……筆を取つて飯を食ふ者は凡そ無官の大夫を氣取るものである、職掌柄自然に殺活自在の呼吸に狎れて一管の筆劍尙善く威武に屈せず、富も犯す能はざる氣慨を養ふ爲めである、從つて偏すれば辣腕を生じ謬れば則ち九底のどん底に落ちるのであるが併し乍ら節制多き現代の操觚界は過渡時代の陋弊を離脫したのである、大西君が記者生活から一會社員と成り濟し〻些の嫌味ない所以も則ち茲に存する、◇……君は曾つて大阪朝日新聞の經濟記者として東奔西走甚だ勉めたものだ、何づれの社内にもあり勝ちな新舊思想の交渉……惡く謂へば古參者が

新參者を嬲ぶる機運に迫られ乍ら然も平然笑殺し去つて粒々の功を積み驅足記者から叩き上げて珍重な經濟記者迄で漕ぎつけた克己心は迚も眞似の出來得ない所である、加之君が漸く擡頭し來つて最早押しも押されもせぬ勢力を握り乍ら漂然と其職を棄てゝ會社人を企てた所なぞは確かに達觀した何ものかがあつたと謂ふべきだ、◇……それで入社後の君は垢拔けのした執務振りと氣の廻る點に於て忽ち男を賣り出して幹部連中に重視され最高部面に囑望されたのである、現職は則ち君が實力を以て獲ち得た適所である、元來が才氣煥發の特長を累けて居るので難解繁雜な事務に當つても更にへコ垂れる樣な事は無い、其都度腕に捻りかけて何に糞で押し通すのである、◇……調査課長と謂へば凡ての基本的調査は勿論雜多な要件で寸暇が無い、氣の少さな者だつたら、忽ち神經衰弱にでも罹る鬼門だ、併し乍ら大西君の膽ッ玉は狸の睪丸糞喰への凄さである由積する、要件を枕に偶々書寢を失敬する事さへあると謂ふ始末だ、實を謂へばこんな時には一寸熱考時間ださうだ、兎に角凝り固り易き會社員の椅子でも彼れは相變らずの閑々子で居る、◇……それで只に官僚式に迷ひ込まぬのみならず彼れは至極下僚思ひで有名である、交際上手と言終つてへばそれまでだが其の君の思ひやりは坦々たる交際上手から生れるもので無い、過去に暮した苦い渡世から割り出すものと而して君性來の優雅な人間味から湧き出るものがある、この美德は君に謂はせると人として當然であるさうだが排擠多い世の中では隨分六ケ敷い行動である、◇……君は亦多趣味な男である、先づ以て學生時代の遺訓たる運動は何に限らず茶目る、其内柔道の樣な男性的のものは殊に堂に入つたものである更に綠酒に杯を重ねては二上り三下り立山鴨綠江節何んでも彼でも唸り出すが而も趣味を有たぬ悲しさ撥の音に迎合せぬのが恨めしい、所で靜閑室に籠つて流し出す觀世流の謠曲は力瘤を入れた賜物として頗る附の達成である、◇……君は丹波篠山を去る數里、有田市助役と殆ど山越しの同鄕である、明治二十一年四月、兵庫縣多可郡黑田庄村に生れ四十三年早稻田大學商科を卒業後產業視察の爲め朝鮮に渡り大正五年には遙かに露國に入りて露都から莫斯科附近を訪ねた、然る後大阪朝日新聞社經濟記者となり前後四ケ年精勵し九年十月大阪

電燈會社の現職となつたのである、

電氣課長　**吉川　忠君**　は明治十六年廣島縣高田郡丹片村に生る明治四十二年七月、京都帝國大學理工科電氣工學部卒業後箕面有馬電氣、播磨水力電氣及び大阪電氣軌道株式會社等に主任技術者として在職大正三年六月伊豫電氣株式會社技師長となり同六年五月山陽電氣技師長の職に就き同十年四月當社に入社現職に就く

線路課長　**杉山鐵七郎君**　は明治四年靜岡縣沼津町に生る明治廿四年三月東京郵便電信學校卒業後遞信省に奉職明治卅六年十月東京通信管理局工務課臨時物品、保管主任より轉じて本社に入り當社技師を命ぜられ、同年十二月外線課主任となり同四十四年九月電氣線路掛主任に任ぜられ大正十年線路課長となる

發電所長　**福谷寅逸君**　は明治十九年淡路國廣石村に生る明治四十一年大阪高等工業學校機械科卒業後直に當社に入社兵役の爲め一時退社し同四十三年十二月再び入社大正七年二月安治川發電所主任を命ぜられ同十二月春日出發電所長となり安治川發電所長事務取扱を兼ぬ大正十一年五月現職に就く

調度課長　**百木惠一君**　は明治二年大阪市南區天王寺筆ケ崎町に生る廿四年三月東京立教大學卒業更に關西大學法律科及明治大學法律科修業卅年桃山煉瓦株式會社(岸和田)支配人に就職爾後、日本火災、大阪火災保險會社等に支店長、出張所長となり、大正八年二月より門司築港株式會社の創立事務に携り同九年九月當社に入社囑託員を經て同年十二月現職に就く

臨建機械課長　**森、朴記君**　は明治十七年三重縣石賀郡箕曲村に生る明治卅九年大阪高等工業學校卒業後直に大阪電燈會社に入社し四十三年安治川發電所機關主任を命ぜられ同四十四年五月歐米に派遣され明治四十五年四月歸社、

前職に就く大正八年九月技師長附を經て機關課長となり大正十年現職に就く

第二欵　宇治川電氣株式會社

（北區曾根崎）

宇治川電氣株式會社は關西二大電氣會社の一として其勢力頗る優秀な法人で電力電燈を江州、京都府、大和、大阪府に亘りて供給して居る

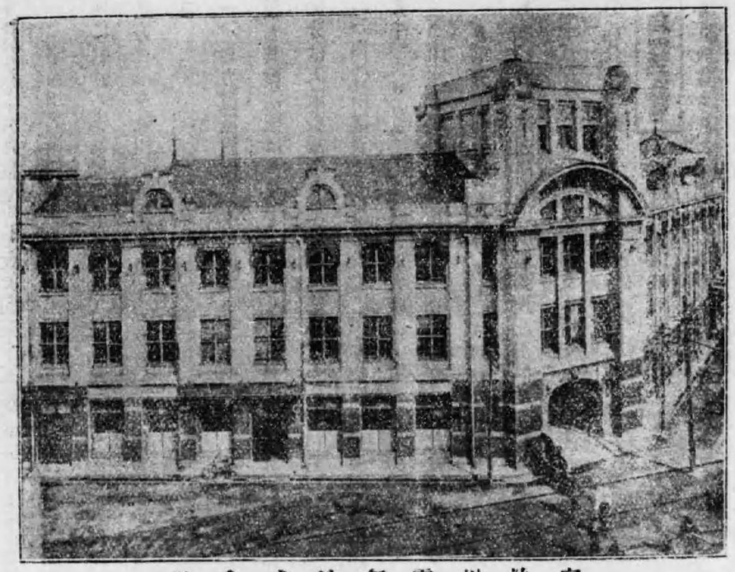
沿革現狀……同社は明治三十九年十月創設せられたもので水源を琵琶湖とし送電線は僅に二十哩に過きず極めて特長を有せしが故に忽ち斯界に雄飛するに至つた、殊に中橋系統の會社として中橋氏が有せし實業界の勢力を其背景として起つた關係上易々として今日の隆盛を遂げたのである現狀に至つては最早前節に於て盡したから此處に省略し只現在資本金三千八百七十萬圓を特記する

重役諸氏……同社亦一流會社として屈指せらる以上其重役諸氏も從つて一流者を据ねばならぬ宜なり現任左記重役は何づれも其律に適し大阪を代表するの人物である

社長木村清、常務林安繁、取締役淺見又藏、野口遵、山岡順太郎、前川善平、監査役男爵大倉喜八郎、福原有信、松方五郎

其の事業……同社の事業狀況は左記の如くである

一、營業の目的は電力の供給、販賣及電氣工業並に電氣に關する機械、器具の製造販賣を營むに在りて其宇治川筋に於ける第一期水力電氣工事は滋賀縣滋賀郡石山村大字南郷地内に於て瀨田川の右岸に水路取入口を設け琵琶湖より一秒



宇治川電氣株式會社

時二千二百立方尺の水量を引用し主として隧道式なる延長六千餘間の水路に依り京都府久世郡宇治町大字宇治郷に導き同所に水力發電所を設け約三萬『キロワット』の電力を發生せしめ之を京都市大阪市及其附近地に供給するに在るが電力不足を補ふには以下の如く計畫施行した

一、宇治川筋第二期水力電氣工事……本工事は宇治川筋宇治橋上流約五十町の地點に於て同川を横斷して堰堤を築設し以て水位を高め堰堤上流の右岸に取入口を設け一秒時二千八百立方尺の水量を引用し延長約一千間の隧道に依り宇治村大字志津川に導き同所に水力發電所を設け約二萬八千『キロワット』の電力を發生せしむ

一、宇治川筋第三期水力電氣工事……本工事は滋賀縣滋賀郡石山村大字南郷に於ける前記第一期工事水路取入口に竝列して其下流に取入口を設け一秒時一千八百立方尺の水量を引用し隧道及開渠より成れる延長一十二百十四間の水路に依り同村大字外畑に導き同所に

水力發電所に水力發電所を設け約五千五百『キロワット』の電力を發生せしむ

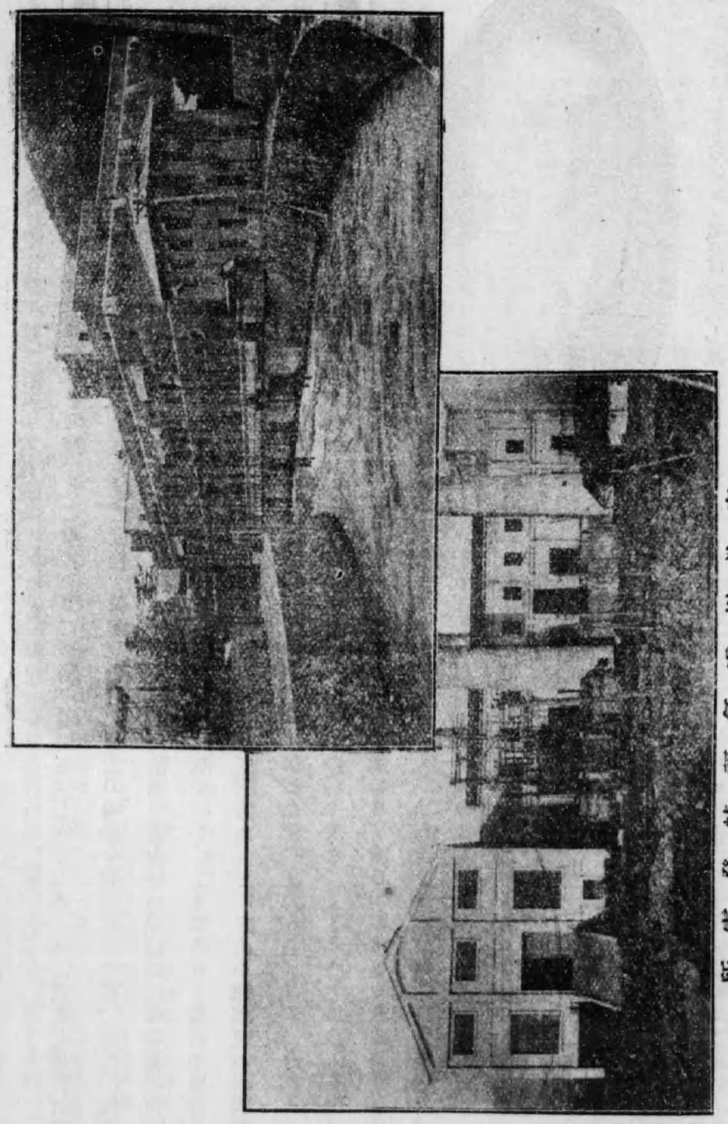
一、宇治川筋第四期水力電氣工事……本工事は前記第二期水力電氣工事堰堤の上下に於ける落差七十尺を利用し堰堤箇所に於ける宇治川の右岸に於て長さ僅かに九十三間の隧道を設け其末端に發電所を設け高水時に於ける剩水一秒時二千立方尺迄を使用し九千三百『キロワット』の電力を發生せしめ第二期工事の送電線に據り之を供給地に輸送するものである

一、火力發電設備……本設備は第一次、第二次の二回に分つ第一次の發電所は大阪市西區北福崎町地内尻無川沿岸に建設し其發電機は一萬『キロワット』三臺にして其内二臺は常用とし一臺を豫備とし尚目下一萬キロワット增設中又第二次の分は大阪築港埋立地船町に建設するものにして其發電容量は二萬『キロワット』二臺にして内一臺は豫備である

一、揖斐川電氣より受電設備……本設備は揖斐川電氣株式會社が岐阜縣下揖斐川筋の水力を利用し發生せしむる電氣中五千『キロワット』を譲受け大阪に送電するものである、

一、日本電力より受電設備……日本電力株式會社が岐阜縣下益田川本支流及富山縣下宮川筋の水力を利用し發生せしむべき電力中約十萬『キロワット』は同社に於て大阪市附近に輸送し郊外に建設すべき變電所に於て本社が受電するものである、尚一、近江支店所屬既設及工事中の發電所四箇所此出力三千五百〇六『キロワット』出願中のもの四箇所五千五百三十八『キロワット』又大和支店所屬既設及工事中の發電所三箇所此出力四千三百四十『キロワット』既許可及出願中のもの八箇所二萬六千七百十九『キロワット』ある

利益配當……同社は大正二年に至り始めて營業を開始したのであるが時恰も、電氣需要の旺盛時に遭遇したるを以て其收益も甚だ順調となり漸次囑目され株の價値向上し來つたのである、而して大正七年に入りては株主配當率も年一割に進み爾後一割一分となり昨今に於ては大電の一割二分と同樣なる配當をなすに至つた、從つて其株式の如きも一



宇治川電氣福崎發電所

躍三倍加の値を唱へる勢ひで巷間手離す者無き有樣となつた、

同社職制……更に同社の内部的職制を考察するに重役の下に事務、電氣及び土木の三部の外に獨立し重役直轄の臨時建設局ありて事務部は岸國次郎氏部長となり其下に庶務、營業、會計、調査の四課を置き更に文書、株式、營業、内線、集金、庶務、計算、倉庫調度の各掛あり、電氣部は部長小林轍氏の下に監理、電力及び線路の三課を置き更に監査、規畫、電力、配電、發電所、外線、地中線の各掛あり土木部は永井專三氏部長の下に土木課ありて萬般を處理す、又獨立の臨時建設局は局長に木村社長、次長に林常務兼任し其下に第一、二及び三部あり更に之れを總務課材料課第一第二課に分つ此の外別途に秘書役ありて赤沼正豪氏其任にあり、

幹部月旦……同社幹部の側面的觀察の資料として月旦を左記する

社長

木村清氏

◇……既にして力量ある者は鋭脫し錐の囊中にあるや必ず離脫するのである木村君が商船會社の文書課長から一躍して宇治電社長に納つた當時は萬人奇異の眼を以て之れを怪んだ、而して一部の者は社長格が下落したとさへ口說いたものだ、然らば木村君が果して課長級に沈溺せねばならぬとの反語は其當時口を極めて卑下した反對論者の間にすら之を求める事が出來なかつたのである、只管情と羨望の二方面から出鱈目な言を吐た感過ぎない、而も月を重ね日を追ふに隨つて昨日の反對者は今日の賞讃者と變り驚愕を續ける有樣である、抑も何故であろう……謂ふ迄もなく彼れや課長時代は臥龍であつて未だ雲を得なかつたのが偶々風雲來つて彼れを起たしめたのである、從つて木村君の内面には時を嫌はず昇雲の力量と素質とが充實されて居たのだ

◇……見給へ彼れが多事なる宇治電を提げて電氣界に愈々覇唱し關西實業界に古參一流株を押し除けて嶄然頭角を顯はし忽ちにして内部の統御を完成し剩へ社運を啓發して行き乍らケロリとして何んの苦もなく活躍して居るではないか空々しい似而非豪姿振りでは斷じて無い、天眞の發露であり正直な姿裝が則ち之れだ、若し微力な者にして克く其任に耐えぬのならば如何に社長とは只の看板なりと斷定しても所詮は苦しい外觀が顯はれて來るのである、然るに宇治電社長は他はイザ知らず初代から雛壇の飾り物を拉した事は無い所だ中橋、中川何づれも實力主義でやつて來た人々である故に木村君のみ除外例を求めんとしても到底出來ぬ相談であろう、事實彼れも亦實力專行主義の男でピンからキリ迄苟も知となく不知となく社務を鞅掌し乘り切つて行くのだ、此に實力と偉材なるを認めざらんとするも能はない譯けである

◇……宜なり彼れは一寸風變りな男で才子智者流に裁決流るゝが如きものもなく又沈重にして大事を取る人物の如く愼重審議と云ふのを試みる事もせぬ、全く其中庸を執つてメスの鋭さにも數倍する才氣智略の閃きを以て事を解剖し更に獨り熟慮に耽つて萬事を決するのだ、而して專門家や其道に達するものゝ說は克く聞き克く攝取しては自家練磨の一助に供するも爲めに所信を飜す事はないのだツマリ意思の强固な達觀に長けた才略自在の偉物である、彼れの持つて生れた特色は則ち之れだ中橋君が商船時代に擢拔し重用したのも一文書課長の彼れを登用して社長の榮職に置いたのも要

する木村君に此獨特な方面があり且つ彼れが自家の特長を辨へて亭ら之れを二用し業を成しつゝありし異常なるを認めたからである……と今になつて始めて萬人がナール程と肯定する有樣である

◇……木村君が萬事に當つて何等澁滯する所なくヤリ遂げ特質を發揮してヤンヤと謂はせて居る原因は最早遠く小學校時代から然りであつた、中學、高等學校、大學と進むに連れて益々其磨きをかけた譯けだ、彼れが未だ仙臺の第一中學校に在學中利かぬ氣の強地張り而も秀才であつた君は先づ以つて其見識に於て、先生の不明を突ッ込んだものだ次いで其意氣地で流石同窓の恐れた豫備大尉の先生を泣かせた事もある、利かぬ氣に至つては校長も流石に一歩を君に讓つたと云ふ珍談がある、進んで第二高等學校時代には校庭で教授される學課が餘りに容易なので時折り獨りノソ〳〵と歸り圖書館に自己教授をやつたと云ふ勿論秀才を以て鳴らした爲めであろうが併し乍ら人知れず努力した結果を見逃せまい

◇……彼れは畢竟將來關西實業界を土臺に第二世中橋君を眞似る有力な人物である、東京市の人で明治十一年十二月生れ東京帝大法科出身で直ちに商船會社に入り大正十年二月特選されて社長となり現在に及んだものだ

◇

◇

◇

專務 林安繁氏

◇……偉材中橋德五郎君が、畢生の心血を注いだ二大事業の一は宇治川電氣である謂ふ迄もなく關西電氣事業界に於ける電氣會社としては大電と相對峙して二大分嶺となり、殊に電力需用の旺盛なる現在より將來にかけて益々鋭角を現はさんとはするのた、今日の如く文化向上の趨勢につれて電氣の需給關係が出でゝ多事なるの時財界の動搖が如何あらうとも兎に角事業そのものは擴大せねばならぬ、然るに宇治電は克く此の機微に觸れて乘り切り供給力の充實を試みて行く

◇……想ふに中橋君が曾つて社長として内外の大綱を統べ來つた勞は固より大なるものであるが而かも創業の當初より事の大小となく機務に參し、東奔西走辛酸を嘗め、或は世間兎角の批評に圍繞されつゝ未だ本邦に例なかりし、此大計劃を首尾能く成就せしめた功勞は實際局に當りて缺掌した林君にも之を數へねばならぬ則ち林君は創立當時より其異才を揮つて奮鬪努力し中橋君を援けて社運の開拓と一面一般電氣需用者に盡したのである彼れは思慮沈重の特長を以て中橋の大雜パな所を補ひ勞を惜まずして腰巾着となり御大の功を成さしめた男である一意專念事業の開發に心を注ぎ殆ど寢食を忘れたものだ

◇……林君は、三十四年出の法學士にして始め、商船會社に在りて重用せられ、其才能力全人物は夙に中橋君の認むる所となり宇治川電氣會社の成るや乃ち擢んでられて其創業事務に鞅掌したのである、君の資性頗る眞摯且つ熱誠の所から斯くて一度宇治電に入るや大小となく社務に奔走努力し着々と基礎を確立した而して彼れは天性同情心に富み人を德化する力が幸ひに大なるものある故に發しては抱擁力となり衆慕の的となり信交の理由となるのだ蓋し、他の學んで得べからざる所であろう、それで尙沈勇果斷頭腦極めて明晰敏快事に臨みて恐れず意を決しては、敢然邁往毫も逡巡なくスパ〳〵と片づけて終ふ

◇……宜なり彼れは斯くの如き徑路を經て今日中橋君が文部大臣となり野に下つて雲閑野鶴をキメ込む矢先きも歷代社長の總參謀となり中橋の素志を享け繼いでは短日月の間に電氣界の雄たる大電に伍肩するの運命を啓き木村社長を援けて自ら專務の要位に座して克く業を祖述するや彼れが抑も逸材にして稀れに見る智惠者だからである、彼れは要するに宇治電の大黑柱と謂つてよい、……だからと申して必ずしも出雲の神樣から秘術を授つたとは申さぬ……乙な方面も大分あるが特に略して終ふ事とする

◇……君は將來に備ふる爲め大正十一年春出發歐米視察を遂げ晩秋歸朝して獨り成果の多きに笑を洩らしては居る

事務部長兼營業課長　**岩國次郎君**　は栃木縣下都賀郡の出身明治四十年東京帝國大學法科大學卒業後直ち大阪商船株式會社に就職四十二年宇治川電氣に入り現地に及ぶ、君は株式會社大阪電機工業所、今津發電株式會社各取締役、大阪陶業株式會社、日本電熱器具製造株式會社、石山宇治通船株式會社の各監査役である

土木部長　**永井專三君**　は大阪市の出身明治三十三年東京帝國大學工科大學土木工學科卒業直に住友別子鑛業所に就職四十年宇治川電氣に入社、大正九年四日歐米各國に於る水力電氣事業を視察し同年十二月歸朝す傍ら日本電力株

會社の取締役をなす

電氣部長　**小林　轍君**　は福岡縣柳河の出身明治三十六年東京帝國大學工科大學電氣工學科卒業同年郡山絹絲株式會社技師長就任、三十七年住友別子鑛業所電氣主任技師に就任、三十八年金澤電氣會社技師長に轉じ、四十四年宇治川電氣に入社大正六年五月電氣事業視察の爲め渡米同年九月歸朝傍ら株式會社大阪電機工業所、石山宇治通船株式會社の各取締役、越中電力株式會社、株式會社米谷銀行の各監査役、金澤市電氣局、小松電氣株式會社、富山電氣株式會社高岡電氣株式會社、石動電氣株式會社の各顧問である

庶務課長　**備藤駒次郎君**　は姫路市の出身明治二十九年日本大學法律科卒業直に內務省に入る、四十一年宇治川電氣株式會社に入社、今日に及ぶ傍ら日本電熱器製造株式會社取締役たり

會計課長兼調査課長　**柴田勉治郎君**　は福井縣敦賀出身明治四十二年東京帝國大學法科大學卒業直に大阪商船株式會社に就職大正六年宇治川電氣株式會社に入社後現任す、石山宇治通船取締役大阪電機工業所、三芳索道株式會社各監査役たり

監理課長　**矢部友雄君**　金澤市の出身明治四十三年京都帝國大學電氣工學科卒業直に京阪電氣鐵道株式會社に就職大正元年十一月電氣事業及機械器具製造業視察の爲め渡米ゼネラル、エレクトリック會社に入社大正三年六月より歐洲各國電氣事業及機械器具製造業視察同年十一月歸朝後南滿洲鐵道株式會社に就職、大正五年宇治川電氣株式會社に入社今日に至る、

電力課長　**中島謙二君**　は金澤市の出身明治四十四年京都帝國大學電氣工學科卒業直に宇治川電氣株式會社に入社す

線路課長　**片山　茂君**　は岡山市の出身明治三十八年東京高等工業學校電氣機械科卒業直に海軍工廠造兵部に就職明治四十年大藏省に就任、明治四十二年古河工業會社に入り明治四十五年宇治川電氣株式會社に入社大正十年十月電氣事業視察の爲め渡米大正十一年五月歸朝現任す、

土木課長　**小林焦三郎君**　は信州松本の出身明治三十五年東京帝國大學工學部土木科卒業直に南清方面鐵道建設事業に從事し明治四十年帝國鐵道廳に就職翌四十一年再度南清方面鐵道事業に從事し大正元年鐵道院に就職大正九年宇治川電氣株式會社に入社し現在に及ぶ

第三款　大同電力株式會社

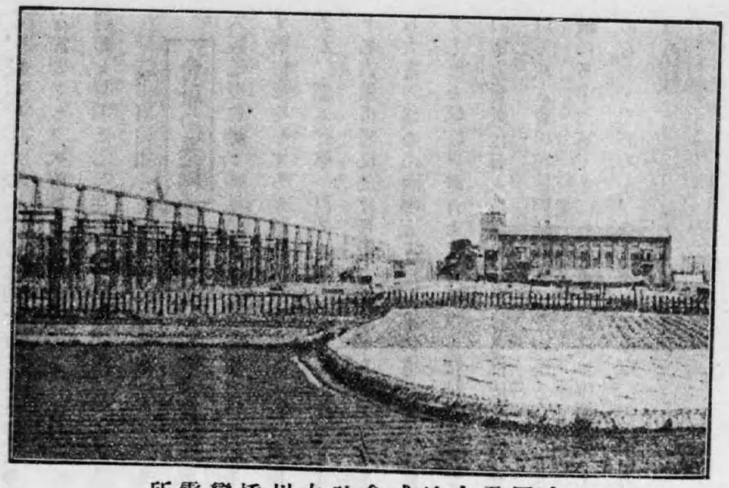
大同電力株式會社は電力供給を目的とする法人にして專ら大阪電燈會社を支持する爲めに創設せられたるものであるが勿論他の電力需用家に對しても市並に府下に亘り大口供給を營むのである、而して其會社創立の所以は關西地方に於ける電化狀態の益々開拓せらるゝに鑑み之れが供給量の漸く涸渴せんとする有樣なれば所謂水力電氣を遠く天惠の地より拉し來つて需給關係を調節し火力電氣の不便と不備とに代らんとはするのである抑も電氣界に於けるや未だ都市民並に商工業者が電化の便を自覺せざりし當時は電氣に對する需要は微々たるものにして優に小規模の發電に因るも尙供給力綽々の體であつたが時代の進歩に伴ひ電化の至便なるを知覺しては多方面に需用の聲起り從來の供給力では殆ど之に應じられぬ事となつた、大阪市附近の實狀に引照するも最近供給力不足の問題到る所に現はれ從前存置した各電力會社も各々最善を竭して設備の擴張發電所の增設、發生電量の增加等を企圖し膨脹し能ふ限り膨脹したのである、然るに翫

然たる需用量には年々正比的均衡を爲し得ざるに至つた、即ち大阪一帶に亘る電力は益々不足を告げんとはしたのである、茲に於てか豐富なる水利を有し多量の電力を得べき地方に完全なる發電設備を爲し而して多量の電力を送電し之れを需要量多き大阪地方に配給せんとするは洵に公益支持の美舉と謂はねばならぬ、大同電力會社に此意味に於ける需供調節を目的として生れた會社である、從つて其系統や商略的方面は如何であつても大阪市の立場より察する時は將に之れ早魃に雨の如く電化を援くる會社として勞を多とせねばならぬであらう

會社の系統

……偖而同社の系統を見れば其株主の共通する點並に發起人の種別と現任重役の黨別に隨つて全然大阪電燈會社と姉妹であり之れが電力の供給を主眼として生れたに等しい、則ち大電は電燈電力の小口大口の供給を爲す既得權を有するが故に大同電力は之れが後衛として電力供給をなし以て兩者一體の下に需給を完結せんとはするのである、然も此第一目的を遂行したる餘力を以て須く京阪電鐵を始め大阪府市の大口需用を充し尙送電線の關係上愛知縣下名古屋市等に於ける電力供給をも致すのである、而して常に競爭の狀態にある宇治電對大電の爭覇戰に參與しては專ら大電の爲めに潛勢力となり宇治電が遙かに富山縣下の電力を蒐めて大阪地方に送電し水力電氣の配給を目的として創立したる姉妹會社日本電力を以て拮抗せんとするに對峙して居る有樣である、更に之れを政派的方面より觀察すれば大同電力會社は日本電氣界に於ける權威福澤桃介を首班とし關西實業界の重鎭鳥德藏、宮崎敬介、太田光熙氏等を列し尙以て政友會の宿將岡崎邦輔氏を中堅として居る、故に謂ふ迄もなく政友系の結束に因る電氣會社である、然るに一方商敵たる宇治電、並に日本電力は之れ中橋系であり同じく政友系に屬するのであるから政友會に於ける二分嶺の一とも認めらるゝであろう、兎に角叙上は單に大同電力會社の概觀であるが其內容を考察するに當つて是非とも理解すべき一節である、

同增設二千百キロ計一萬四千七百キロ、大桑發電所一萬千キロ、須原發電所の九千二百キロ、讀書發電所四萬七百キロ



大同電力株式會社古川橋變電所

沿革と內容……同社の創設は東西電氣事業者の間に早くてより甚議ありて暫々不足を告げんとする關西地方電力の缺を充實せんが爲めに明治四十二三年頃有利なる水利地域の選定行はれたのであるが愈々法人として創立されたのは大正七年である、初め名古屋水力との提携を以て搖籃時代を過して來たが一躍して木曾川流域に水力發電所を設け大ひに水利を開發して電力發生を試みるに至つた則ち

木川曾筋には賤母、大桑、須原、讀書、大井、桃山、寢覺、落合笠置、錦津、今渡第一、今渡第二の十二發電所を起し落差高きは三百七十尺より低きは百十一尺に至る水力を利用して合計二十一萬八千キロワットの電力を得る計畫を樹て

尙木曾支流の矢作川筋に串原發電所を設けて四百五十尺の落差を求め以て六千キロを得、九頭龍川筋に西勝原發電所を設けて七千キロの電力を蒐め更に此外天龍川、矢作川を始めとし北陸方面の河川を開發して實に將來百萬キロワットの電力を一手に收めんと試みて居る、而して現在に於て既に發電中のものは賤母一萬二千六百キロ

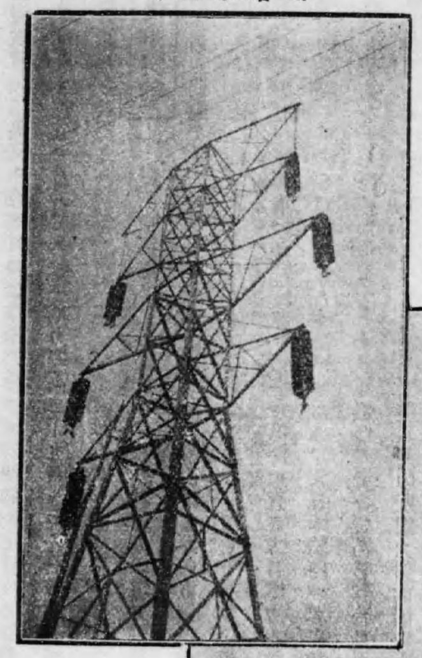
桃山發電所の二萬三千百キロ及び串原六千キロ、西勝原七千キロ合計十一萬千九百キロに達する、大正十三年三月には大井發電所も竣成するので其發生電力四萬二千九百キロを合算する時は凡て約十五萬キロを超ゆる譯けである、故に當初畫策したる百萬キロ送電も敢て遠き將來ではないのである、

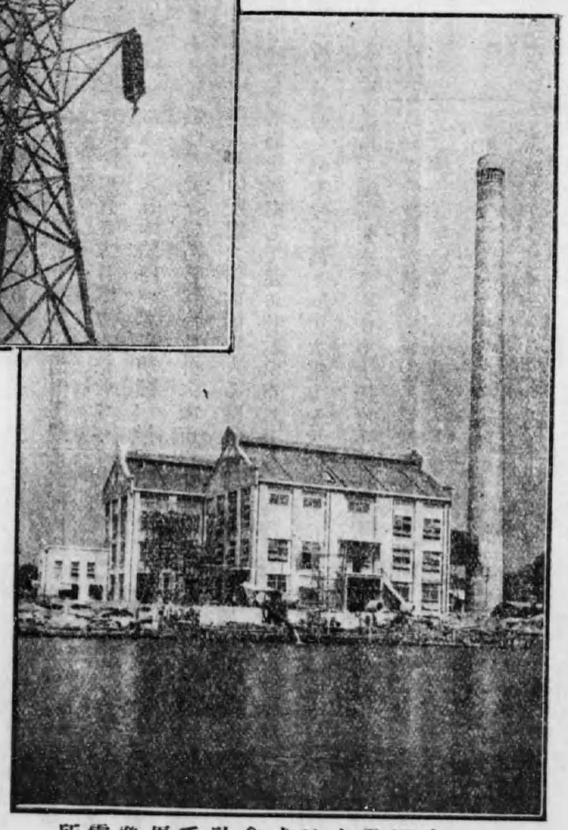
供給契約……關西を終點として畫策された大同電力の電力供給計畫は果して現實に契約するもの幾何なりやは蓋し興味ある問題である、抑も同社の系統が既に關西事業界の重鎭を包括し進んで政治的色彩に於て政友會を背景とするが故に供給開拓にあつては甚だ至便なる立場にある事勿論である、而して現に大同電力會社は著々既定方針に因り需用家を蒐め大阪府、京都府、神戸、和歌山の各府縣に亘る大口電力を供給すべく契約濟となり大阪市に對しても一萬キロの假契約を履んで居る、更に鐘ケ淵紡績を始め、大日本紡績、福島紡績、岸和田紡績、其他大小工場の本支店に對し電力需給の契約を爲し既約供給量九萬キロを超ゆる勢ひである、尙此外大阪市內の各會社京都市、大阪電燈、京阪電鐵、京都電燈等に大口配給を爲すべく大正十二年八月の所謂大送電期に入る時は一齊に配給を完備する筈であるが更に大阪の東南を迂回し東成郡、堺市、泉北郡、泉南郡を經由して遂に和歌山市に及ぶ配電をも完成するのである、

電送系統……大同電力會社は列記の如く將來壹百萬キロの大電力を大阪地方に送電するを目的とし年々其計畫の實現を一部宛致して居るのであるが其送電は凡て鐵塔架空式に依り大阪府下京阪沿線なる古川橋變電所に集中するのである、古川橋變電所は電氣事業界に於ける最新式の設備を試み之れを世界的變電裝置なりと謂ふも恥ぢざるものであるこ而して茲に送電する系統を略記するこ

長野縣下桃山、須原、大桑、讀書を始め各發電所より一は名古屋市より信州に達する中央線南側に沿ひ南下し名古屋市附近に於て西折して淸洲に至り他は中央線北側に沿ひて南下し岐阜縣に入り今渡より西南行して直ちに淸洲に達す、之れより愈々大阪送電線は南下して三重縣龜山町に至

鐵塔架空式





大同電力株式會社毛馬發電所

り西折加太山脈の山顆を横切りし京都府下木津町に入り關西線に沿ひ生駒山の北方に走り四條畷より古川橋に終るのである

發電所の内容……本邦に於ける最大電力を理想とする同社の發電設備は頗る新式なものであるが其一例として賤母、大井兩發電所の内容を摘記する、

一、賤母發電所の設備は本會川を横斷して高さ百七十尺全長一千尺天端十七尺の一大堰堤を築造し茲で水位を高める水路としては堰堤の上流より内徑三間丸形の壓力隧道全長百七十五間のもの二個を穿ち是れより全長二百二十二尺の水壓管四個に分岐す、其内徑實に十二呎六吋である、此れに依し得る水力は落差最大白四十呎、水量最大四千五百個（但し平水量三千三百七十個渇水量千三百個）を得る計畫である之に對する流域面積は一萬三千三百二十九平方哩である

其所電機械は竪軸反動型フランシス水車最大出力一八〇〇〇馬力回轉數一八〇毎分でアリスチャルマー會社製造に係るもの四臺を据付け發電機は一三七五〇のKVのもの四臺を水車直結し之れに要する勵磁機として一〇〇〇馬力水車直結電機二臺を備ふるのである

二、大井發電所では主要機關は水車と發電機を直結せるもの三組である、水車はボービング會社製（工場瑞典）でウイン、スパイラル、フランシス型で常用六〇〇〇馬力、回轉數三六〇毎分である、調速機も同社製自働油壓式である、發電機はGE會社製回轉界磁型三相交流型で容量四二〇〇〇KW壓力六六〇〇V周波數六〇星形結線である、變壓器は米國ウエチングハウス會社製油入水冷式單相二六三〇KVAのもの七臺で内一臺が豫備である、一次電壓を六六〇〇V二次電壓七七〇〇Aとし二個のバンクに分ち共に三角形結線とす、勵磁機は一八〇Wの直流複捲式發電機二臺で各二三〇馬力フランシス型タービンで運轉する

重役諸氏……同會社は近き將來送電完成と共に一割乃至二割配當を決行せんとして居るが其株式數は二百萬株にして株主總員一萬四千七百八十八人である之れが資本金は其定款に明示する通り壹億圓を數ふるのである、而して此大會社の運命は擧げて重役業務執行の可否にかゝる事であるから重役の選定も勢ひ有力者を網羅する事となり取締役十九名、監査役九名が現任して居る則ち左の諸氏である、

社長福澤桃介、副社長宮崎敬介、常務取締役增田次郎、太田光熙、三根正亮、近藤茂、關口壽、
取締役岡崎邦輔、山本條太郎、大澤善助、島德藏、下出民義、寺田甚與茂、角田正喬、成瀨正行、
渡邊龍夫、八木平兵衛、木村又三郎、村瀨末一、監査役(常任)淺野長七、伊丹二郎、渡邊嘉一、
秋岡義一、坂仲輔、祇園清次郎、田中博、藍川清成、馬場齋吉、

而して前記の中三根、近藤、關口の三氏は著名の技術家で就中近藤茂氏は曾つて遞信省技術課長の要職にあつた工學博士である、又福澤、宮崎、島、太田、寺田、渡邊、坂、の諸氏は實業界の元老株で岡崎、山本、秋岡三氏は政友會の著名な人物、其他諸氏も悉く一流の實業家である、尙同社は本社を東京市麴町區八重洲町一ノ一に設け大阪及び名古屋に支店を有するが大阪支店長には元府警察部に手腕を發揮したる警視たりし木村森藏氏を任じ萬般の拆衝に充てゝ居る木村氏は決斷と洞察力に於て一頭地を拔く切れ者で巧みに社運發展の前衛をなし內外に頗る信任を博して居る、

第四款　日本電力株式會社

大阪を中心とする地方に於て電力を消化する率は蓋し東洋第一を以て數ふるも不可ないのである、然るに年々歲々需

要量の激增夥しきものあるに反し之れが供給力は水力發電の昔日より漸く水力發電の將來に入らんとする過渡期に屬し未だ需供關係の均衡が行れない、加之電力需要の度は頗る向上するに供給力は甚だ微弱にして將に發達せんとする商工業を措止する有樣である、從つて心ある事業家は夙に電力增量に就き深慮を碎きつゝあつたのである、併し乍ら大阪電燈系が急速の設置として採用した火力發電の方法も結局は燃料即ち石炭價の昂騰及び石炭の有限にして生產中斷の事ある理由に因りて近き將來に公益の目的に伴はず且つ一方營利の生命をも脅威せらるゝ狀態にある故に專ら天然の惠與たる水力發電の策に出づる時代が招徠さるゝは必定である、顧みれば大阪附近には不幸にして水力發電の好箇な所がなく勢ひ無盡の水利を他に需めねばならぬ、然も電力需要熱は現在既に夥しく將來は更に一層向上せんとして居る之れ抑も日本電力株式會社成立の遠因とはなつた理由である、

則ち同社は日露戰後の狀態に察し近き將來に關西地方の電力不足と水力電氣旺盛時代の實現とを慮りて一は長距離送電を企圖し他は水力電の無限を語らんが爲め電力需供の安全辨として山岡順太郎、故中川淺之助、林安繁、池尾芳藏、竹內直哉、市川誠次、利光平夫、中橋武一、石原正太郎、永井專三、子爵前田利定、安宅彌吉、淺見又藏、矢野慶太郎武藤嘉門の關東西裏日本に亘る諸名士が主腦となり資本金五千萬圓を以て大正八年十二月創立されたのである、而して專ら我國三大河川の一なる木曾川流域に於て發電し又は發電せんとする各電氣會社の電力を蒐集し尙日本電力會社自ら數ヶ所の發電所を設け水力發電をなし合して大阪地方に送電せんとはする譯けで、系統から言へば宇治電系である

送電設備……斯くて會社は關西電業界に水力電氣時代來の警鐘と福音とを傳へたのであるが送電設備としては先づ以て會社直營發電所工事を進め木曾川筋飛驒川に於ける久々野、小坂、馬瀨及瀨戶の四箇所に於て合計五萬キロワットを得更に神通川筋の宮川に大無雁、蟹寺二發電所を設け計五萬キロワット合計**拾萬キロワット**を得んとし既に大

正十二年には一部分の發電設備が竣成する筈である、尙此外には裏日本富山縣下の庄川水力、白山水力及び、越中電力各會社と其他岐阜富山兩縣下に於ける電力業者の發生電力を蒐めて會社の內容を充實し將來二十萬キロワットを大阪地方に送電する計畫である、而して大正十三年早々瀨戸發電所より二萬キロ、富山縣營より一萬キロ、越中電力より二萬キロ、神通川より四千キロ、立山電力より三千キロ、合せて五萬キロを送電し此等の電力は地方の大口需要家に供給するの外大阪に於ては主として宇治川電氣に供給するのであるが其後逐年送電量を增し其都度既契約會社並に需用家に配電する豫定で二十萬キロ十五萬キロは最早確實なる販路を有し從つて公益に資する甚大なると同時に又以て其利益配當も著しいものと思惟されて居る、

偖而叙上の電力は凡て岐阜富山兩縣下に於ける發電に屬する爲め大阪送電には又特別なる施設を要するのである、則ち送電基點は富山縣婦負郡蟹寺より大阪に至る延々二百哩の長距離は凡て最新式の鐵塔を建設し架空式に因つて本邦に於ける最高壓である**十五萬五千ボルト**壓を送るのであるが其內先づ岐阜縣益田郡瀨戸より岐阜市に出で東海道線路に沿ひ大垣、彥根、京都附近を經由して大阪に至る百三十哩の線で大正十二年中に工事竣成の見込である、而も現在では送電假線を大垣大阪間に架して揖斐川電化會社より買受けたる一萬キロを宇治川電氣に送電供給して居るのである尙臨時豫備の爲め同社では火力發電所を兵庫縣尼ヶ崎市に建設し二萬キロ發生機械二臺を据付け萬一に備へる豫定で當該工事は大正十二年中に出來の見込であると云ふ

同社の組織……目下の所未だ事業の內容整備せぬので事業は小規模に過ぎないが將來內容充實の曉には宇治電系統を代表して大電系統に對峙するのである、從つて現在の組織は早晚變更される譯けであるが目下の組織は重役の下に總務部、電氣部及び土木部ありて別に秘書を有す、而して總務部には庶務、會計、調度、用地の四課に分れ、電氣部には電務、發電、線路の三課あり土木部には工務、設計の二課あり各々二乃至四の係を所屬せしめて業務を

行ふのである、

現任重役……現任の重役は特に會社創立當時より一流事業家の發起に係るものであるから財界實業界に於て著名なる人々で左の諸氏である、

社長 **山岡順太郎** 副社長 **林安繁** 專務 **池尾芳藏** 取締役 **竹內直哉**
市川誠次 **利光平夫** **中橋武一** **石原正太郎** **永井專三** 監査役 **淺見又藏**
安宅彌吉 **矢野慶太郎** **武藤嘉門**

因に監査役中には筆頭として**子爵前田利定氏**が在任したのであつたが氏は加藤內閣の遞信大臣に親任されたる爲め大正十一年夏辭任した、

第五節　瓦斯事業

大阪市に於ける瓦斯事業は燈料として之れを擴張經營する能はざる狀態にあれども電氣事業の專ら燈用動力等に資すると同樣に燃料工業用として動すべからざる勢力を持つて居る輓近の生活狀態は都市の發達と共に益々簡易ならんとし時間的經濟の觀念は一世を擧げて旺盛とはなつた而して舊來行はれたる燃料並に其器具の如き漸次不便と不經濟との缺點あるものとして改善の第一矢を浴びつゝあるのである、更に工業方面に於ては高熱を簡單に發生する爲めに裝置の複雜と使用上の危險とを慮りて電熱を排して瓦斯の需要甚た多い斯くて瓦斯事業は燃料に工業用に絕對的需を有用し其他

方面にも電氣に追隨しつゝ消費せられて居る、併し乍ら瓦斯事業は由來之れが發生に特別なる裝置を要し輸送方法も亦水道事業の如く鐵管の敷設を必要とし各需用家に配送するには各々鉛管を用ゆる等大規模なる設備なくんば事業經營不可能なる爲め電氣事業の多く競爭狀態にあるに反して獨專的事業なるを常とす大阪市の如きも瓦斯事業は需用者に對する配給としては大阪瓦斯會社あるのみである、以下同會社の內容を摘記する、

大阪瓦斯株式會社

大阪市と相聯聯して公益會社に屬する大阪瓦斯株式會社は逐年報償契約金二萬三千五百五十三圓九錢を支拂つて道路其他の使用權を獲得し而して市民日常生活の燃料及燈火資源を供給して居る、

同社の沿革　今其內容を紹介するに當つて先つ沿革の大略を記す必要があろう、則ち同社は既に明治二十五年以降關西實業界の巨星が相會し諸外國の活例に則つて蒼りに瓦斯事業が軈ては國民生活上缺くべからざる地位を占むべきものと推稱したのに抑もの起源を發して居る、偶々明治二十七八年の日清戰役勃發し幸ひに日本の捷利を得て局を結んだ結果次いで事業熱勃興せるに乘じ襲に着目したる瓦斯事業も急遽具體的の實現方法を講究する事となり茲に松田平八氏外數名は愈々事業計畫を實行すべく發起人となり檄を八方に飛ばして目論見を進め二十九年八月末創業の第一聲を擧げ會社の基礎を定め起業上の大體の設計を完成したが未だ人智の啓發今日の如く向上して居らぬ爲め徒らに金融事情に妨げられ着手するに至ならかつた、然し乍ら固より不惑不拔な財界の猛者揃ひの發起人等である、如何にもして初志を貫徹せんものと日夜狂奔之れ勉め小泉清右衛門、松田平八片岡直輝三氏が中堅となつて努力の結果明治三十年四月十日資本金參拾五萬圓の會社を組織し設立の登記を踏んだのである、現今に於てこそ僅少資本と解さるゝが併し乍ら當時にあ

つては甚だ巨額の會社として一般の驚異を招いたものである

外資輸入　然るに元來事業の性質が著しく大規模を要するものであり多數市民相手の仕事である、從つて多方面に設備萬端遺漏なからん事が必要である、それには運轉資金が豐富でなければならぬ、顧みれば肝心の株式に對する一般の智識が甚だ淺薄であつた、それが爲めに將來發展する事必然な此等の事業に向つても進んで投資せんとする氣勢は頗る薄弱で到底會社自體が伸足すべき保障を獲られぬ狀態であつた、茲に於て再び關係諸氏は第二次の難關に遭遇する事となり東奔西走專ら資本の需用を策したのである、偶々東京市に於て瓦斯事業の民間經營問題起り之に對して世界の瓦斯王と迄賞揚された米國の事業家アンソニー、エヌ、ブレデー氏が斯かる有益なる計畫には惜まず投資せん事を聲明する旨を確め得たれば種々の經過を遂げたる末大阪に於ける該事業に其の協力を仰ぐ說漸く盛んとなり所謂外資輸入の端緒を啓き幾度か折衝を重ねたる後愈々同氏の意に作ふべく一決し明治三十五年七月九日臨時株主總會を開きて斷然資本金を一躍四百萬圓に增額する事となつたのである、之れより先き三十四年二月十日の臨時株主總會の砌り重役の選擧を行ひ尙片岡直輝氏を社長に推擧の上外資輸入に關する一切の代表を囑した、從つて氏の貢獻は瓦斯會社の發祥と共に永久滅すべからざるものである

其後の發展　斯くて同社は隆々たる勢ひを以て事業を營み三十八年には九月廿三日を卜して中の島三丁目の現在所に其本店を移轉の上設備を調へ瓦斯供給の途を擴め同十月十九日には大阪市內全線路に亘つて供給を開始し超ねて十一月四日盛大な開業式執行四十二年一月六日更に二百萬圓を增して資本金を都合六百萬圓に改め大正三年二月十二日又々增額して金壹千萬圓の大會社となつた、而して現在の拂込高八百十五萬圓と云ふ押しも押されもせぬ强固なものとなつたのである、

而して現狀は

本社……北區中之島三丁目壹番地

工場……西區岩崎町

にある外に出張所を列記すれは左の通りである

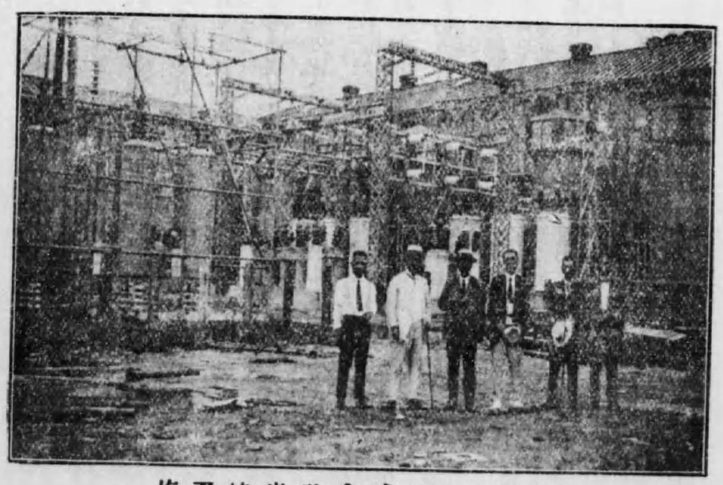
△**平野卿派出所**府下平野鄉字泥堂　△**西野田派出所**北區西野田玉川町一丁目　△**天王寺派出所**南區天王寺椎寺町　△**南船場派出所**南區鹽町二丁目　△**天滿橋派出所**北區壷屋町二丁目　△**北堀江派出所**北堀江六丁目　△**内久寶寺町派出所**内久寶寺町二丁目　△**難波派出所**難波新地四番丁　△**江戸堀派出所**江戸堀南通三丁目

重役諸氏……同社の重役は左の諸氏である

社長　**渡邊千代三郎**　副社長　**片岡直方**　取締役　**岸清一**

チャーレス・イー・エル・トウマス　**前田秀實**　**下村孝太郎**　監査役　**今西林三郎**　**忘方勢七**

◇　◇　◇



大阪瓦斯株式會社岩崎工場

瓦斯會社々長　渡邊千代三郎氏

◇……大阪實業界に奇人を以て濶歩する渡邊君は一に之れ輪廓のハッキリとした自我心の權化である、凡ての修養は自已の一點に集注して自我の扶殖に道具立てる、我利々々盲者の無鐵砲から進むの非禮なるは君の尤も詳かに知りぬいて居る所だ、從つて一顧だも與へずして唾棄する事には一般人と異つたものが無い、只併し乍ら己れ無くば神も佛もなかりけりと謂つた樣な悟底を掬すのが珍らしい、……過去の經歷なぞ書いて何にゝなる、最早生なき者の戯れぢやないか……俺れは未だ十年生きて働くつもりだ……今から過去帳に付けるゝは不都合千萬……と彼れは喰つてかゝる、それでも眞劍に主張するのだから受け付けぬ譯けに行かない、君の信念は事毎に燃ゆて凡ゆる世の中の慣習と情弊とを打破せずんば已ま無いのである、其骨を知る人は渡邊君に限つて阿諛も利かねば情實も役に立たぬ堅固な志操の男位ひは既に呑み込んで食傷するであろう、……俺れは生れ乍らの迷信を持つて居る寫眞を取れは壽命が縮むと云ふ事だ迷信と笑はれても仕方が無い俺れの信念は人の容喙を宥さぬものだ彼れは實際此の談議になる、奮然衆論を一蹴する慨がある、何ものゝ脅威も何等の遠慮も何の包藏も無く魏然として我が信憑を語るのである、堂々たる男子を僻易させる彼れは亦孀々たる美形に對してもお構ひ無しの强硬態度だから面白い、

◇……曾つて大阪に慈善音樂會が催された時斯道の先覺を以て鳴る關某夫人の一行が偶々入場券を押しつけに歩いたものだ、而して名流實業界と見込んで渡邊君の許を尋ねた、社長室で會談數分、夫人達は例に依つて滔々と曰く因緣から切符の効力まで述べて得意然と椅子にフン反りかへつた、所が肝心な渡邊君さも飽々したと言はん許りに曰くが振るつて居る、……それは至極結構な話しです……而して頂戴すれば宣敷い譯けの解つたお爺だと謂はれるかも知れぬが左樣は參らぬ、……我々の學生時代には人間の尤も墮落性を帶びるものは藝術とか音樂にあると教へられた而して常に之れを

警戒して居た樣な始末で我々の眼から見れば無暗矢鱈に音樂會〳〵と謂ふ女は女優か藝妓それも擯れ切つたあばずれ者としか見え無い何は兎もあれ眞平御免を蒙ろう信念だから左樣御承知を願ひますと出た、……居並ぶ婦人連、事の餘りに大膽放恣なのに顏色蒼然となつた、然し剛毅な信念に對しては何んぼも手の出し樣が無い、ドゞのつまり急に眞紅な顏に變つてねえ渡邊さん…あばずれ者たあ聞えませぬ買はなきや買はぬでよいぢやありませぬか…とは反抗したが當の渡邊老見向きもせずに事務を執るのに二度驚天逐ひに闖に怨みを叩きつけ乍ら退却した事さへある、相手の色別に甲乙せぬのが稀れに見る特長であろう、

◇……其の君はあれで中々風流人た、玉突きをやり出したら平常二百位ひは屁のカッパだ、若い時分には凝り固つた丈けに今日の腕前も頗る確かである、斯道の愛好者連は大阪クラブの記錄を辿つて見ればスグ分る所だ、碁に至つては打ちもせぬのに批評をする、而して甲乙の激戰を徹夜してゞも側に座つて觀戰する、戀て戰跡について詳細明確な講評を下すのだそれが亦大家と雖も豫想外な獨特さである

◇……渡邊君に此の贊辭を捧げたら必ず……何にを謂んだ馬鹿な事をするのが紳士道ぢや無い……君の如きは全く外道……だと攻擊される位ひは覺悟せねばならぬとは謂ひ事實だから枉げられぬ、君は岐阜縣の人慶應二年生れ明治二十二年東京帝國大學法科出身後歐米視察を遂げ海外の情況を先づ以て紹介した一人である、而して三十七年十一月來片岡直輝翁と共に瓦斯會社を創設經營したのだ、……過去を書いて何になる過去帳に過きぬからと口を緘した以上些々たる經歷は丸拔きにする、只君の洋行當時米國は紐育市で屢々質問されたと謂ふ一事を添付して結びを付ける、それは二十六年頃日本とは一體何處にあるのか、その國には電信電話鐵道の設備があるかと浴せられたさうだ、當時から僅か三十年後五大列國に列した大日本を嘸ぞ驚愕して居るだろう君も同樣に、

副社長

片岡直方氏

◇……貴族院勅選議員片岡直輝朝臣の御曹司と謂つて終へは如何にも笠に被る樣だが直方君は退ッ引きならぬ後目相續である、然し親爺の光りで通る樣な螢武者とは抑も三世の昔から異つて居る、それかと謂つて無我愛や無障壁を唱へし喘ぎ出す程放縱でも無ければ雛壇に据え付けの木像でもない、只普通一般の人道に起ちて洒脫無垢な頗る平民的の快男子である……君の思潮は象徵派とでも謂ひ度い、親爺俺れより年が上だと觀念をし乍ら偖て其他は何處に優劣あるかを詮索する調子で眞面目な思牽をこんな極點まで働かせる、偶々世上の紛雜な事象に對しては洵に肯綮な要點を忽ち捉へて意表外の觀察と評とを下すのである、其の奇拔な而して卓越した長所は到底眞似も出來ぬ所から人呼んで君を長者の茶目と謂ふ……然り全く茶目に相應はしい、君は小柄な氣持のよい程工合よく肥つて居て斷髮式の頭を愛くるしい鈴なりの眼に引き立たす好紳士である楚々たる一擧手一投足にも何處となく魅力を備へ如何に鋭鋒を向ける强論敵でも哄笑乍らの警拔な批判を聞いては一溜りもなくギャフンと參る、三の句を繼ぐ所の騷ぎでない、流石に閻魔樣でも顎を外す幕となるから妙である、

◇……試みに君と會商して見る、チョコトンの態度でなんでも受太刀する、而して徐ろに鋭い切先が閃めいて擧句の

果ては、寄せては返す應戰振りの際も暇もなき攻勢に轉ずる神妙さ感歎の外はあるまい、其周到な用意と世間通の點に於て稀れに見る人である、然も博聞强記な頭腦は試鍊の社交的秘術に因つて遺憾なく發揮され遂に明快なる印刻を人毎に頒つのだ、……この短評を彼れに提供したならいや嫌つたい迷惑種だと謂ふに相違ない然し、……だが萬更でもないね人は……られたいから生きて居るのが多い……位ひの横槍を入れるであろう、彼れの天稟は適切な評論にある、萬端を洞察するに別段ピンから兎までの釋明や徵象が必要で無い、一端の微動に因つて大體のヒントを摑み推理と想定と構想とを次第に會得する、

◇……其の異才は鑑て文人の筆致として結晶するのだ、君は好んで文筆に親しむ、ナグリ書きに過ぎないと逃げを打つて居乍ら慧眼な卓拔な而して一種獨歩の風ある著書が度々出版されて居る、曾つて北海道に遊んでは北海遊記をものし洋行しては所謂『裏から見た米國』と銘名する書が完成されて居る、其他種々隨筆めいた文壇の雄篇が隱されてあるのだ

◇……其の文體なぞを一瞥すると其だ瀟洒簡潔で興味深々なものがある、寧ろ技工を避けて描寫を主眼とし更に材題を自らの體驗に取つた所は一双眼を備へて頗る人氣を呼ぶ次第であろう、一寸其米國歸來談を借用すると、桑港市長訪問だ市長君折角葉卷煙草を献ずると君はノー、サンキューと一蹴した、所が後から非禮と聞いて顏から火が出る樣でしたと叙してある、

◇……此の赤毛布の失敗談は君の著書に納めて公開して居る、其外戰時に於ける米國の裏面は諧謔を交へずして卒直に皮肉つて居るのである、萬事が此の調子で世相觀は言行其れ〳〵宛然たる警句染みた音律だ、君の趣味には文筆以外に玉突、乘馬、野球、テニス、寫眞、寫生等多々あるが寫眞は殊更黑人筋に匹敵しテニスの如きは自ら五百坪の地所を購つて理想的コートを二つも設けて日曜毎に會戰する熱心さである、……今でこそ押しも押されもせぬ大阪瓦斯會社副社長の椅子に納つて料るが學生時代には隅に置けぬ腕白男でニックネームをカタンと唱へられて居た、明治四十三年も

花散つて芳葉に春を忘れんとする頃君は同僚を語つて日頃眞面目腐つて居つて居る友人K君を祇園に拉致した向ふ鉢卷湯上一枚と云ふ輕裝で飲めや歌への亂痴氣騷ぎ……實はK君の本音を吹かせる橋渡しとは隨分君も人が悪い、

◇……君は元來が土佐の人であるが乃父の職掌柄實は東京神田で生れた生粹の江戸ッ子本籍は今兵庫縣にある、始め小學を東京で修め大阪堂島中學出身後第七高等學校を出で明治四十三年京都帝國大學法科大學を卒業した、後ち直ちに乃父の關係で阪堺電鐵庶務課長として三ケ年勤續後近江銀行營業部長となり六ケ年勤續し更に轉じて現職にあるのだ、此の經路は何を寓意するか將來に活目すべきであろう

取締役　前田秀實氏

◇……君の瓦斯會社に於けるや主として内部の操縱に當つて居る、正副社長の別働隊となつて苟も雜關視される問題に突進して行くのだ、殊に理財の道に通曉する君は洵に明確な計數の觀念に長じて居る、從つて採算上の處理に至つては其尤も得意とする所である、併し君は至つて慇懃な腰の低い紳士で何人に對しても些の徑庭を作ら無い、一視同仁開襟之れ勉めるのである、……其碎け過ぎた特長は隨分揷話の種となつて居る、曾つて彼れが愛媛縣内務部長當時大隈内閣の爲に休職となつた、政府筋では前田君を政友派と睨んだのである、則ち君が平常懷を低めて呢懇らしいのが唯一の禍因であつた、所が誰れ謂ふと無く時の大藏大臣若槻禮次郎君の緣者と傳へられ探つて見ると紛ふ方なき甥殿だ、さあ一大事内務省は再び起用せんと試みたが、そこは其れ前田君、例のペコ〳〵調子で出るかと思ひの外、地方行政は尻から見るに限ると刎ねつけた……而して東北地方の行脚に餘念も無かつた、之れには流石敗けぬ氣の渡邊勝三郎（當時地方局長）君もギャフンと參つた君に謂はすれば我輩の先輩は政黨政派を超越した所にある、政友憲政何づれにも之れあるださうだ、此の調子は實業界にある今日でも寸毫の變化が無い、最近鄕里松江市の市長候補に擔がれたが膠もなく斷つ

て居る、而して一意專心現職に忠ならんとする彼れは只さへ底氣味惡い程の明智に人知れず磨きをかけて居るのだ、

◇……君は此の名劍を持ち乍ら空也然と構へて一見無爲の如く歩んで居る、それが故意も偶意もある譯けでない、只眞摯な平常時が則ち然あるのだ、一度自他何づれにせよ衝動があらば茲に始めて異才擡頭し、天才的の手腕が產れる一寸風變りの材であろう、彼れには寧ろ刹那的才幹か然らずんば臨機的才畧に天禀を有すると評せば妥當であろう、……以上はこれ現在の如是觀である、一にも二にも腦裡の閃めきを俟つ樣に瞬間の沈默ほんに瞬間の冥默をして油然當該問題に處するの途を撰び限りなき克己心と精悍豹の如き勇往心とに因つて忽ち活舞臺に投ずる其の內面的立場から窺へば彼れは人知れず努力を凝らす所に偉大さが發見される、而して努力の眞髓が過去の苦い經驗に鑑みて夫れ〴〵絞り出されるに至つては左もあるべき證左があるのだ、……君の今日は緣もゆかりもない偶然の出來事とは謂へない、それかと謂つて彼れ自身の奇才が風來的に齎らした果實でも無いのだ、只脈々たる血潮の累積に依つて築いたのに過きぬ、最初月給十五圓の腰辨に甘んじて二十五才の靑春を忘れ乍ら努力した昔もある、それが今では會社の重役で從五位勳六等の嚴めしい肩書さへ持つ迄仕上けたのであるが其理由は斯うである、……前田君は明治六年二月出雲國松江市に生れ松江中學卒業後山口高等學校に學び思ふ所あつて學を廢した、其後私かに獨學に沒頭し檢定試驗に應じて師範中學女學校教諭の免許狀を獲教育界に乘り出さんとしたが一夜思索將に勉めた學句初志を弊履の如くに棄てゝ東都に上り法政大學に入學し法律研究に餘念なかつた、……明治三十六年同校を出身後尙未だ獨學已まず遂ひに三十八年高等文官の試驗に合格して內務省の屬史となつた、四十年拔擢されて樺太廳事務官に轉じ新占領土の行政に渾身の意圖を延べ四十二年一躍して警察部長に進み楠瀨、床次、平岡各三代の長官に寵を受け大正二年山梨縣警察部長同三年愛媛縣內務部長に昇進し七年官海を見限つて現職になつたのである、

◇……其間樺太廳の六ヶ年は一生の記念であると彼は告白してる、自然の雄大なる粗景が彼れに取つて爲らざる寶

として如何に儀表となつたかは蓋し神のみ之れを知つて居るのだ、其警察行政に於てはキビ〳〵した評判者となつた、前田君は隱れた裏日本殊に松江市の爲めに佐藤信安君と共に二幅對の人材であつた、然し昔を夢の如く流して兼堺瓦斯會社取締役となし勉勵酣なる傍ら讀書と散策に隨喜して居る

第六節　勞動爭議と各會社

我國最近の傾向として勞働の資本化を如實に鮮明せんとする思想が行はれて居る、而して此等の思想は健全に將た亦我國產業組織の大綱を素らずして發達助成せんとした識者の努力も遂に空しく偶々歐洲大戰亂に際し露國の倒壞するあり、英國の炭坑勞働者の大罷業起り次いで米國に亦炭坑並に交通勞働爭議起るあり、加之明治四十四年末に端緖を啓きたる一般經濟界の向運は大正九年末に入りて最高好況より瓦落し忽ち影響を各方面に及したるに基因して漸く生活狀態に不如意を蒙りし勞働者が失ひたる好況時代の剩餘と安逸とを再び招徠すべく苦慮する事となり、茲に尤も便宜なる標語卽ち勞働の資本化を叫ぶに至り斯くて不健全なる思想は世を風靡する狀態とはなつたのである、說を爲す者或は勞働者の勞働資本化の聲は合理にして自然であると說く、而して理論を語る人は勞力出資の形式に於て何等資金負擔者と異らず故に分配の法則も出資者として之れを取扱ふべく改善するが至當であると論ずる、併し乍ら勞働者が其好況時代の惠澤に馴れて獨り之れを不況時代にも償はんとするは是か非か、更に勞資關係が如斯單純なる區別と配當を爲し得べき狀態にあるや否やは熟慮を要する筈である、然れども大勢は滔々として大阪地方にも染傳し來つて大正九年中には大阪電燈會社に從業員の紛糾起り、次いで藤永田造船所、大阪鐵工所、大阪市電鐵部等にも勞働者の爭議あり大阪砲兵工廠

の所謂官業勞働者の結束して各種の要求を迫るあり、其他紡績業者を始め住友伸銅所外、工業商業各會社に大小こなく勞働運動なるもの起る事こなつた、交通會社の如きも大正十一年七月二十五日阪神電鐵會社從業員が恰も天神祭の繁忙期を狙ひ一齊に同盟罷業を試み阪神間の交運を阻止したのを始め、各電鐵會社の勞働者にも勞働運動ありて著しき不安を與へたのである

勞働運動の既發生狀態より斷ずれば勞働者の要求は何づれの場合にも(一)賃銀値上げ(二)待遇向上(三)時間短縮等に歸する、言はゞ悉く自家の浴せんこする要望のみで毫も其代償を拂ふ所がない、從つて資本階級は解雇、拒絶の極端な防禦を試みる事となり結局勞働者の激越な直接行動生れ警察力の發動で運動者に不利を招じのが過去であつた、現在に於ては勞働各種團體も組織せられ節制も訓練されんこする傾向であるから勞資間の紛議も資本家の讓歩こ勞働者の理解こに俟つて漸次一掃さるゝ形勢である、只併し乍ら將來兩者の協定可能なりや將た亦團體運動こ資本家思想の不一致を招くや目下の所容易に逆睹する事は出來ない

第七節　電燈買收

茲に電燈買收と稱するは大阪市が大阪電燈會社この間に締結したる契約によりて大正十一年一月一日より發生した所謂大電買收を謂ふのである、既に此買收問題に就ては本書第二編第二章に於て詳述してあるから重複を避け單に其補足を列記する事こする

大阪市當局は買收効力發生を機こし大正十一年一月末日より大阪電燈當事者この間に交渉を重ねたが六月末に至つて

漸く兩者の見解相一致せず市は明治三十九年締結したる舊契約に因り電燈會社の全部を買收せんこし會社は大正九年の新契約に則る一部買收にのみ應ぜんこする有樣で交渉遂に調はず此間市は市會各派の協議を經て有力なる後援を得んこして目的を達せず會社は大正十一年十一月十三日二百株以上の株主六百三十一名を招集して態度を熟慮する等曾つて過去十數年に亘りて市政上の難關こせられた同問題も容易に解決の曙光を得ぬ狀態にある、殊に同問題進捗如何に因つては會社當事者も市當局も各々其進退問題を惹起するのであるから尙多く折衝に時日を費さねばならぬのである

第五章　共益機關

第一節　概說

茲に共益機關とは其實質に於て公益會社と殆ど差異なしと雖も事業の性質が更に廣く且つ特定されざるものにして之れが經營の目的は一面に社會的利便の一端に置くと共に營利の途を啓く會社即ち共同利益の分配を主眼とするものを包括するのである、從つて其各方面に亘る各會社が此部門に屬して居る、例へば商取引の會所にして有力な便法と目さるゝ取引所あり、或は都市膨脹の將來を慮りて土地建物の提供賃貸賣却を行ふ土地會社あり、都市民の生命財產に對し消極的方面より憂惧を除かんとする保險會社あり又は文化的生活の栞となり且つは其啓發に資する紡績業、食料品、各種機具土木建築等を營む會社等ありて一々枚擧に遑がない、加之、凡市内に亘り商工の業を經營する會社は概ね共益會社と謂ふを得るであろう、故に茲には其一端を拉するより外ない、從つて雜然たるを免れないのである、併し乍ら一般的標準は當初營利を主眼とする事業經營が同時に市並に市民の受益を齎すものを此章に部屬したのである

第二節　取引所

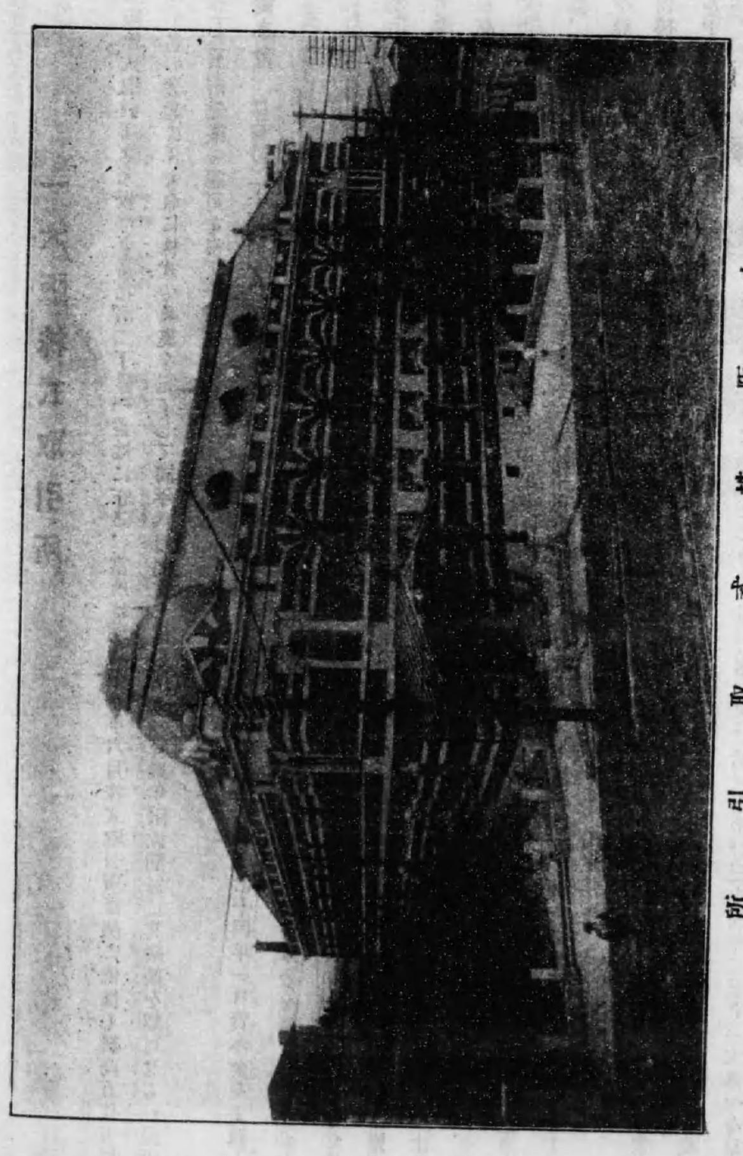
大阪市に於ける取引所は株取引所、三品取引所、堂島米穀取引所、の三ヶ所ある、然して諸會社の株式、綿糸、棉花木棉及米穀等の商取引會所となつて居る、以下各取引所に就いて之れを略說する

一　大阪株式取引所

大阪株式取引所は大阪市東區北濱二丁目一番地に在る、當所は明治十一年六月株式取引所條例に依據し紳商五代友厚氏等十名の發起に係り直に株式の募集を完了して同年八月開業し爾來屢次の營業年限滿期毎に其繼續を認可せられ最近大正十二年迄營業の認可を得て今日に及んだのである

資本金　は初め二十萬圓を以て創せられたが偶々西南戰役後の幣制動搖に禍せられ明治十四年一月資本金を半減して十萬圓とした、然るに爾後經濟界の膨脹に伴ひ前後六回增資し最近大正九年八月四千萬圓の資本金を擁するに至つたのである、而して**賣買物件**は營業當時は僅に秩祿公債及新舊公債の三種のみであつたが明治十一年九月金祿公債の賣買を許され次で起業公債の賣買を開始し翌十二年一月初めて當所株を上場した、是れ實に株式賣買の嚆矢であつて爾來我國產業の勃興に伴ひ事業會社の株式は公開市場を利用するの時運到來し船舶株、鐵道株、紡績株等順次相輝いて上場せらるゝに至り賣買物件累增して大正十年下半期末には國債證券六種此現在額金十億三千六百五十八萬二百五十圓、地方債證券五種此現在額金六千三百二十四萬三千三百圓、諸會社債券九十五種此現在額金三億七千五百三十萬三千六百九十圓、諸會社株式二百九十三種此資本金三十六億三千六百二十八萬六千百五十圓株數五千九百二十五萬五千五百二十三株を算するに至つた

尚**營業景況**に就いて見るに當初創業の際には公債の賣買に止まり取引を極めて微々たるもので明治十二年一月當所株を上　したるも同年上半期の賣買高僅に百十七株にして受渡高五十七株に過なかつたが二十七年日清戰役勃　し戰後諸種の事業が勃興するに伴ひ市場亦熱狂し日露戰役を迎ふるに及び事業界は活氣を帶び三十九年に至り一大盛況を呈し



大阪株式取引所

投機熱は熾烈を極め四十年上半期には四百餘萬株の出來高を示し株式市場の黄金時代を現出したが軈て反動的不振を誘致し爾來一張一弛の商勢を示しつゝ大正二三年の交に至つて商況最も不振であつた、然るに歐洲戰亂勃發して戰局の進展と共に市場漸次殷賑に向ひ賣買高は著しく激增し大正五年十月二十三日の如き一日の賣買高三十萬株を算して當所創立以來の新記錄を作つた併し乍ら突如獨帝媾和提議說傳り場面總崩れの慘狀を演じ警戒的商況の裡に經過し休戰條約の締結せらるゝに及んで一時の反動的不振は免れなかつたけれども財界の復興に伴ひ漸次好勢に轉じ戰後の大相場を惟はしめたが昨春來外國貿易の大入超、金融の逼塞等軟材料は市場を壓迫して遂に反動的大暴落を演じたのである此影響は財界一般に波及して未曾有の大恐慌を呈するに至つたが最近諸株樣頭の氣運は醸成せられつゝある尙現任重役は左の諸氏である、

理事長島德藏、常務理事宮崎敬介、增山忠次、濱崎照道、監査役寺井榮三郎、阪本彌一郎、大谷順作

終りに同取引所の將來に就いて見るに固より豫斷することを得ないが我國經濟界の長足の進歩は國威の發揚と共に今後益々著しきものあるべく從つて財界のバロメーターたる同取引所の殷盛は必然の勢である、近く現物仲買人の設置により社會の要求に對應し又改築も行はれて新裝せば北濱街頭は更に偉觀を添へて名實共に財界の中心たるに至るであろう

二、大阪三品取引所

大阪三品取引所は明治二十六年三月取引所法の公布せらるゝや今西林三郎氏外七氏發起により同年十月二十三日內外國產綿糸棉花木綿の三品賣買取引の目的を以て**資本金**十五萬圓株數三千株一株の金額を五十圓と定め營業所を東區高麗橋四丁目八十四番屋敷に設け明治二十七年二月六日其設立登記を濟し同年二月二十一日より營業を開始したのである

綿糸、棉花、木綿の**賣買法**は當初は銘柄賣買卸ち綿糸は各製造會社名、木綿棉花は生產地名に依れるも綿糸木綿は銘

柄の範圍狹少なる爲め往々買占の弊害が起り易いので其賣買法を改めて受渡品の範圍を擴大し同番手同布にして同品位のものは其製造所及生產地の種別を廢し一時は便宜を得たけれども尙實際市價不同なる品を同一値段で賣買受渡するのは不都合である爲め茲に標準賣買格付受渡法の必要起つたが受渡品の檢査は從來肉眼を以て爲し來つたが器械を使用するに至つた取引の圓滑を期し得た、次に問題とされたる賣買取引期間延長は逐年商取引に於ける信用制度の發達に促されて長期の賣買契約を爲すもの多く殊に紡績會社對綿糸商間に於ては六ヶ月以上一ヶ年の先物取引行はるゝ現狀に鑑み大正三年綿糸に六ヶ月の長期賣買を許可せられた尙增資の結果大正七年一月二百萬圓とし大正八年十二月拂込濟となる歐洲大戰の後財界の順調に伴ひ漸く綿業界に其存在を認めらるゝと共に斯界に欠くべからざる相場機關となるに及び大正九年九月一躍三百萬圓の增資をなし全資本五百萬圓にして大正十年三月第一回拂込十二圓五十錢を徵して現在拂込額二百七十五萬圓で所屬仲買人は五十名ある、

第三節　土地建物會社

大阪市が所謂近代的工業地として益々膨脹せんとする狀態にあるを以て之れが趨勢に順應し而も有利な利營を伴ふ土地建物會社の蜂起するは洵に自然の勢ひである、然るに此等土地建物の需給關係を保ち收益を目的とする經營事業も多くは需用者が庶幾する便宜の場所を撰擇するに非ざれば其目的を達し得さる爲め市を中心として縱橫に走る郊外電車路をトし其沿線に經營しつゝある者最早大正十年度末現在で六十九會社公稱資本金二億七千二百八十二萬五千圓拂込額一億二千八百九十四萬千二百五十圓に達する、而して其會社設立の情勢を觀るに抑も都市の擴大竝に土地建物の需用に應

すべく當該事業の開始されたのは明治三十六年以來であつて大正八年に至り財界好況時代の副產物として一時に經營社數が激增したのである、故に前記會社の中には相當健實に經營する者あるも亦殆んど一時的收益を目的とする不健全なる會社が介在するは否まれない事實である、殊に資本金の固定的消費額の頗る多き土地建物經營業は一面に於て需用者の不定なるあり他面には資金調達の難關を控ゆる事として一層財界の動靜に支配され易く從つて一朝其悲況なるに遭遇せんが忽ち經營難に陷入るものである故に事實上昨今の狀態では設立會社の約八割强は事業中止又は形勢觀望の立場にあるは其だ當然と謂ふべきである、併し乍ち都市の膨脹に際して住宅難又は過剩人口の解決に當つて此等土地建物會社が反射的乍ら多大の貢献をしつゝあるは何人も否定すべからざる所であろう、只現在に於ては徒らに多數の會社ありて悉く住宅建築を目的の一に數へて居るが建築濟及び建築中のものを合算するも尙且つ三千戸を超へない而も其の過半は市の所謂低利資金の轉貸に依つたもので頗る成績擧らぬのを遺憾とする、加之、一時的出現の無責任な經營者は何等効果を齎さぬのみでなく却つて土地の所有權を大資本の下に包含し地價の昂騰を惹起させたのである、今此等會社の頒布狀態を摘記すると、市內十五社、大軌(奈良線)沿線十一社阪神急行沿線十五社、阪神電車沿線五社京阪沿線四社、北大阪電鐵沿線一社、南海及阪堺沿線七社等で所有地七百七十三萬六千四百五十坪、共有地二萬八百坪、借入地二萬坪、埋立權地三十一萬九千坪、信託地三十一萬坪に及び利益配當あるものと之れなきものあり、配當あるものは最高一割三分にして最低三分五厘である、左に就中强固にして所期の目的を達しつゝある會社を記す

一、大阪北港株式會社

大阪北港土地株式會社は住友家の一部事業にして大正八年十二月資本金二千萬圓全額拂込で設立、市內西區恩貴島町秀野町、西島町、常吉町、鳥屋町、春日出町、一帶の地に八十二萬四千坪を所有し其他水面埋立權利地三十一萬九千十五坪

あり凡て竣成の上賣却賃貸及住宅の經營をなす目的である、而して更に低利資金一百萬圓を得て西島、春日出兩町に四百戸の住宅を建設し共益に資せんとして居る

二、安治川土地會社

安治川土地株式會社は資本金二千五百萬圓拂込額千七百五十萬圓を以て大正六年十二月設立された法人で西區石田、田中、八幡屋、新池田、各町に亘る五十萬六千二百坪の地面を所有し尙二萬八百坪の共有地を有する、而して內土地造成濟のもの十二萬三千坪既設住宅三百二十七戸外に早晩竣成せんとするもの二百七十戸を有し最近市に於て極東オリンピック競技場竝に市立大運動場設置に際して其八幡屋町の敷地を提供したるより頃に經營地域の發展を招くに至り將來尤も有望なるものと目さるゝ會社である、現在の重役は社長藤田德次郎、副社長田中市藏、常務木間瀨策三、取締役外村與左衛門、外村鐵三郎、辰馬吉左衛門、辰馬勇治郎、高木與太郎、南鄕三郎、監査役西村久次郎、岡部新太郎、山田穆城周彥の諸氏である

三、大阪土地建物會社

大阪土地建物會社は大阪實業界の偉物宮崎敬介、島德藏氏等の主宰する所にして明治四十四年七月資本金三百萬圓全額拂込で創立したものであるが當初未だ原野として顧みられざりし新世界の一帶に二萬坪の土地を借入れ興行場八ヶ所賣店六百二十四、浴場一、バラック二十三、軒店二十九を設け大ひに土地開發の先驅を爲したのであるが悉く成功を收め、數年にして有利なる配當を得ると共に大阪名物の一ヶ所となり今や料亭櫛比人家稠密し盛なる事千日前に次いで有

名となつたのである、之れ要するに同會社が多年開拓に盡瘁したる賜物で土地建物會社としては優に覇を唱へて居る、

四、千日土地建物會社

千日土地建物株式會社は大正二年四月資本金五百萬圓拂込額二百七萬五千圓で設立されたのであるが大阪市の熱鬧地千日前に土地千三百二十四坪を有し前記大阪土地建物會社の例に倣ひ有名なる樂天地其他諸興行物及び酒場を經營し配當一割三分を持續する會社である

第四節　保險會社

都市生活の前途には幾多の利便あると共に半面に於ては又以て數次の憂惧を伴ふのである、故に田園生活者に比しては著しく生命財產に對する安全の方途を講ずる必要あり進んで商取引上の安固をも樹立せねばならぬ即ち地方となく都市となく通して人生の不安を保障すべき保險事業は社會の文運と共に益々行はれて來るのであるが殊更大阪市の如き都市には住民の自覺を促進するので徵兵、火災、生命傷害其他萬一の事故を豫想して保障の一端となる保險事業が隆盛となるは甚だ至當な現象と云ふべきであろう、此等保險事業を經營する會社は頗る多數あるが今其主なるものを摘記する

第一款　日本生命

東區今橋四

日本生命保險株式會社は明治廿二年七月の創立で同年九月鴻池善右衛門氏社長に就任し今橋二丁目に業務を開始し鴻

池社長引退後片岡直溫氏代りて社長に就任し漸次運の社發展に伴ひ大正三年資本金を百五十萬圓に增加した然に大正七年其の第四回大決算期に際し片岡氏其職を辭したので新に山口吉郎兵衛氏を取締役會長に推し弘世助太郎、橋本重幸、岸田李の三氏專務取締役として一切の業務を執行する事となつた而して大正九年資本金を三百圓に增加し其後橋本、岸田兩氏は專務を辭し爾來弘世助太郎氏專ら業務を掌理して居る、今開業以來の事業進歩の跡を觀るに新契約は日露戰役前までは年々五六百萬圓前後に過きなかつたが戰後は約一千萬圓に上り更に明治四十四年よりは二千萬圓乃至三千萬圓の間を彷徨し大正七年に至り時恰かも歐洲戰亂に依る財界の高潮に際し一躍五千萬圓を超ゆるの盛況を呈し爾來毎年七千萬圓以上の新契約を持續獲得して來たのである解約死亡保險金額を控除せる年末現在契約高亦年々長足の進歩をなし明治廿八年には一千萬圓に達し一大祝典を擧行したる程であつたが明治四十年に至り五千萬圓を大正元年には保險料一億圓を超過し我邦斯界空前の記錄を作るに至つた而も毎年約一千萬圓の純增加を以て累進し大正七年には二億圓に達したるが眼覺しき威勢は二年を出ですして大正九年に三億圓を引續き大正十一年には四億圓を突破するに至つたのである

特色及主義方針……同社は株式組織の長所を併有して居る、即ち株式組織の如く株主のみの利益に偏せずさりとて相互組織の如く會社の損失を加入者に負擔せしむることなく專ら保險契約者に對し年々多額の割當をなし五年目毎に大決算を行ひ增加保險證券なるものを交付するのであるか同社の保險料は他社の利益配當付保險の如く特に高率を課するに非らざるのみか寧ろ無配當保險料よりも尙且つ低廉なのである、而して飽くまで堅實眞摯を是とし保險契約者に對しては能ふ限りの便宜と利益とを企圖すべき方策の下に經營せられて居るのである、加之毎年獲得する數百萬圓の大部分は之を保險契約者に配當すべき準備金として積立てゝあるから契約高は著しく激增し積立金亦た莫大なる算額を呈し基礎は愈々鞏固となり他の追從を許さざる權威と勢力とを有して居る、尙同社は大正十一年三月より東京市に開催された平和記念東京博覽會に際し教育社會館へ成績圖を出品し名譽大賞牌を受領した此外米國シカゴに開かれた萬國博

覽會、第四回內國勸業博覽會及第五回內國勸業博覽會等に於ても受賞して居る

最近の業績……同社の事業成績を示せば左の如くである、

一、諸準備金六千八百六十八萬三百九十四圓七十錢八厘（大正十年十二月末現在）、責任準備金五千八百五十六萬九千九百七十七圓三錢、內譯（純保險料式）其他準備金一千十一萬四百十七圓六十七錢八厘、一、保險契約高三億八千八百三十九萬六千四十圓（大正十一年六月末現在）一、柴約件數四十五萬六千四百三十九件（大正十一年六月末現在）一、開業以來死亡支拂保險金三千百三十七萬五千八百七十八圓（大正十一年六月末現在）一、同滿期支拂保險金四百三十三萬七千四百一圓（大正十一年六月末現在）

現任重役……は左記諸氏である

取締役會長山口吉郎兵衛、專務取締役弘世助太郎、取締役岸田李、阿部彥太郎、片岡安、淺岡雄之助、監査役坂野兼通、肥塚源次郎、相談役片岡直溫、

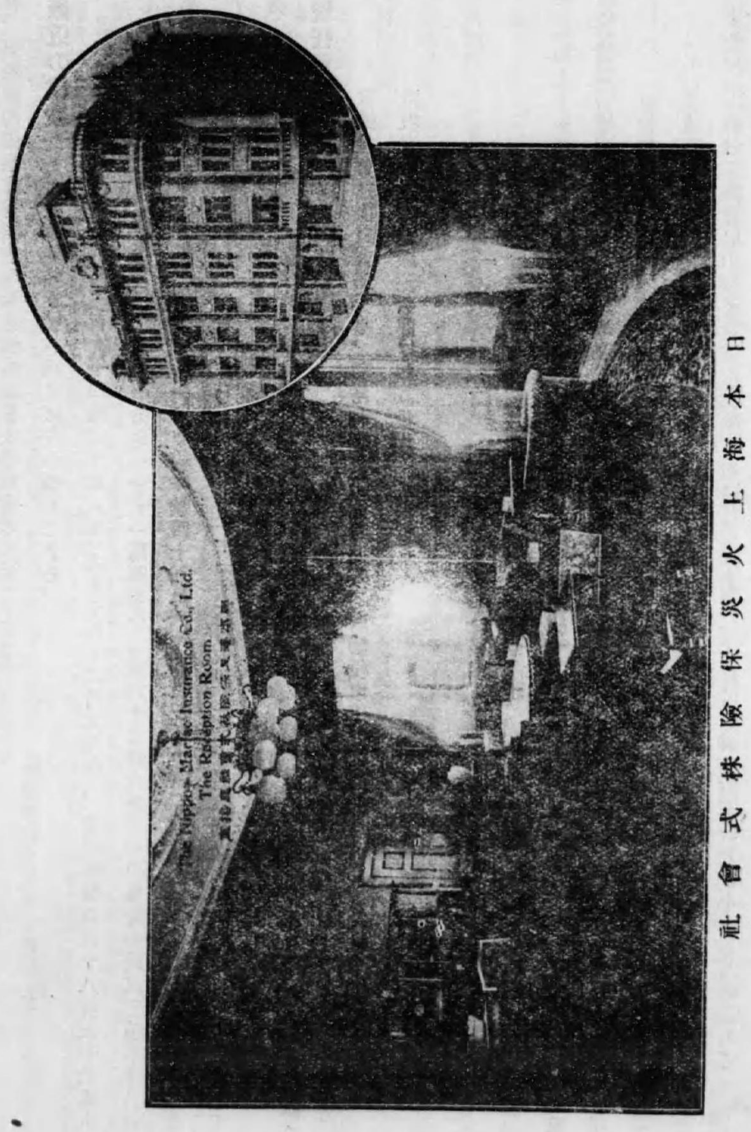
第二款　日本海上火災

西區江戸堀上通

日本海上火災保險會社は大阪市の營造物に對し火災保險を契約する保險業者の一人である其基礎強固にして業務の確實なる斯界の權威となつて居る、現在重役は

社長右近權右衛門、副社長右近和作、常務右近福次郎、八十島五郎右衛門、取締役八木千之助、中村三之丞
監査役岸本五兵衛、早瀨完二

の諸氏にして最近業務發展の結果新館を大阪市西區江戸堀上通一丁目に建設し內容の充實を策したのである



日本海上火災保險株式會社

第參欵　豐國火災保險

北區曾根崎新地三

豐國火災保險株式會社

豐國火災保險株式會社は大阪市内知名の實業家及び富豪を大株主とし明治四十四年十二月設立翌年二月の開業に係る新進會社で太田政之氏創立の衝に當り資本金三百萬圓を以て我大阪市に因緣淺からざる豐太閤に因み豐國火災の稱號を以てし諸般の準備に着手せしも株式募集意の如くならず將に是れが目論見を放擲せんとするや島德藏氏斯業の前途多望なるに着想し太田氏の計畫を紹いて立所に是れが設立を遂げ同時に島氏社長として自ら經營の任に當り爾來業績大いに見るべきものありしも偶々當時斯業界には先進五大會社の猛威を振ひ且同社と相前後して二三同業會社の新設せらるゝや被保險物件の爭奪激烈を極め爲に保險料は頓に低下し隨つて其經營最も困難を極め茲に於て多年大藏省及農商務省の要職を歷任し後大阪市助役として令名ありし大谷順作氏は大に期する處ありて大正二年專務取締役に就任島社長を助けて奮戰力鬪克く其難局に處し泰然自若として飽迄穩健着實なる營業方針の下に漸次事業擴張基礎の鞏固を計り大正五年島氏の社長を辭するや大谷氏代つて社長に就任愈敏腕を揮ひ大正六年我國損害保險界の覇者たる東京海上保險會社と業務上の提携を爲すと共に海上保險の兼營を爲すに至り仍て更に一大勢力を加へ着々と社業膨脹に伴ふ諸般の施設を行ひ其面目を更新したのである今營

業狀態を示さんに大正十年十月末の契約高は火災部三億六千八百七十三萬圓海上部四百九萬圓の巨額に達し諸積立金は二百四十二萬圓にして實に拂込資本金の三倍以上を抱擁し年一割五分の株主配當を爲すに至れり斯くの如く幾多先進同業會社を凌ぎ嶄然として斯界に頭角を現はせる又以て同社の勢力と地位とを知るべく尚當局者の手腕をも想察し得べし

現在重役は取締役社長大谷順作、取締役鳥德藏、尼崎伊三郎、阿部彦太郎、太田貞雄、前島彌平牛鈒三郎、監査役濱崎健吉、小林利昌の諸氏にして孰れも斯界の老錬家東西實業界に於ける第一流の實力信望兼備の志を網羅して居る

第五節　土木建築業

商工都市としての我大阪市には常に各種業の勃興盛衰極りがない、從つて土木建築の業は財界の動搖如何樣であつても將に中斷さるゝ事なく行はれて居る、殊に最近都市計畫事業の施行と共に益々其必要に迫り或は官衙に或は民間に當業者を俟つ事夥しいのである、而して一方當業者を一瞥するに藤田組を始め大小殆んど千を以て數ゆる有樣であるが、就中市に關係深きものを左記する

一、株式會社大林組

沿革　大林組は一般の建築工事并に鐵道港灣治水其他土木工事の請負、職工人夫の供給及土木建築工事に要する諸材料の販賣等を主要の目的として尚是等の工事設計及監督の依囑に應ずることを營業の目的としてゐる

同組の營業組織の變遷を顧みれば明治二十五年一月故大林芳五郎氏之を創設し年と共に隆盛を致したが日露戰役後事業界の興隆に際會して益々基礎の堅實を加へ、折柄時世の推移と共に其組織を法人に革むるの可なるを認めて明治四十二年七月之を合資會社として指據精勵大に努めつゝあつたが大正五年一月芳五郎氏病を得て長逝し嗣子義雄氏之を繼承して引續き營業を繼續し遂日繁榮を來したる結果更に業務の擴張を圖つて時代に適應せしむる必要から大正七年十二月其組織を株式會社に變更し資本金二百萬圓拂込百二十萬圓を以て成立同十年六月拂込百五十萬圓に增加し更に十一年三月全額拂込濟とした

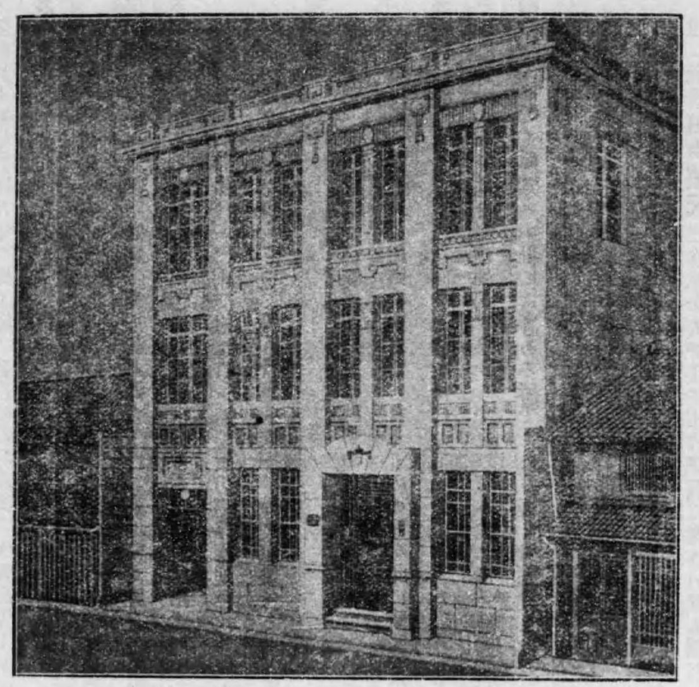
事業　創立以來請負施行したる各種の事業は頗る多岐にして無慮一億圓以上に達するだらう就中第五回勸業博覽會の營造物及大阪灣築港工事は共に關西の巨工として斯界の注目した所である、又日露戰爭中は軍事鐵道敷設、軍役夫の供給及軍事上機密の仟務に從ひ種々なる困難危險を冒して國家に奉公した尚當時廣

株式會社大林組

島普通寺及大阪等に建設せられたる陸軍病院は總面積五萬坪以上に達したるが期間百日を出でずして之を竣成せしめ又濱寺の俘虜收容所は僅に三週間にて克く二萬八千餘坪の建物を急設した、更に戰後陸軍の擴張に該り增設されたる六個師團の内豐橋岡山の二個師團を岐阜、德島、篠山、奈良、津の五個聯隊を請負執れも期日を怠たす竣功し然も成績良好の聚を以て褒賞を與へられた尙は先年鐵道省所管岩越線建設工事の實施に當り幾多の障礙を排して之を竣成し其他通天閣を首め總積五千坪に達する和洋各種の建造物も亦同組の完成したものである、更に特記すべきは明治天皇并昭憲皇太后兩度の御大喪に方り御陵造營の至重の任務を全うし更に伏見桃山東陵の本工事をも奉仕した

經歷 又我帝國の關門たる東京停車場は規模宏大輪奐の美を極め防火耐震の構造に成れる三層樓なるが其竣功に從事尙大阪の起業に方り其中央に介在する生駒山隧道は廣軌複線延長一萬一千八十八呎に達し本邦土木界の記錄たる名工事なるが亦同組方施工した 又京都停車場の擴張工事の實施、大阪市營の新難波橋其拱橋十連延長六百餘尺雪白の花崗石にて疊甃せられ結構莊麗なる其橋、又本邦美術の精華たる桃山期の手法に古典及現代の趣味を加へ優麗典雅なる一種の樣式を創成せし代表的和風建築の會根崎新地演舞場も亦當大林組技術者の慘憺たる經營に成るのである、又當組施工に係る建築工事の主要なるものを擧ぐれば日本郵船、古河商事兩大阪支店、第百四十七銀行、東洋製鐵工場、東洋毛糸紡績工場、大藏省所管三田尻下松兩地の再製鹽工場、京都煙草製造工場、東京中央電話局、第一第四、第十二各師團の野戰重砲兵營、第十一、第十五師團の野砲兵營、第十六師團航空第三大隊飛行場、敦賀檢疫所其他各種の企業に伴ふ工場事務所の建築工事にして其平積無慮數萬坪を實施したのである、從つて斯業界の模範として推奬されて居る

◇ ◇ ◇



二、株式會社松村組

營業種目 一、土木建築請負並に附帶業務 一、一般住宅並に金融に關する業務 一、物品賣買並に仲介代辯業務 一、鑛山事業に關する諸の業務

沿革 松村組は故松村雄吉氏が明治廿七年三月之を創設し爾來年を閱すること茲に三十餘年時代の趨勢に鑑み大正八年七月組織を改めて株式會社と爲し松村雄吉氏が之れが社長となつた超ゐて翌九年八月松村雄吉氏死去せしを以て當時專務取締役たりし實弟田中讓氏社長に就任し今日に至つたのである

現況 其後從來の營業方針を踏襲して居るが田中氏獨特の方法で民間に於ける開拓に努力しつゝあるのである、而して其實施中の工事は甚だ多數であるが大體に於て福島市高等商業、浦和高等學校、中央毛糸紡績會社工場建築、

株式會社松村組

大阪砲兵工廠油質場及第二旋工場、名古屋高等商業、大阪高等工業、鳥取高等農業、大阪工業試驗所、吳海軍工廠砲燥部及港務部廳舍其他である、

支　店　同組は支店又は出張所を設置し同方面に於ける營業の開發し將りつゝあるが其場所は東京市牛込區市ヶ谷田町二の四松村組東京支店、吳市藏本通六丁目二番地吳支店、名古屋市中區大池町七丁目一の出張所、三重縣津市外町家出張所大垣市外北杭瀨村出張所、鳥取市外吉方町松村組出張所等である

事業成績　同組は一、創業以來只一路堅實の道路を辿り孜々曳々として健全着なる發展に努めし外衆目を聳動せしむるが如き業績を齎らさずと雖ども普迅速安固、確實を使命として經營に當りしを以て受賞表彰せられしこと數ふるに遑まらず

特　色　同組は從業員奬勵法を設け時勢の推移に則社會の大勢に鑑み勞資協調の圓滑融和を標榜し之を實現せしむべく即ち大正八年七月に組織を變更爲したるもの亦因を此に藏すものにして現社長田中讓氏夙に意を注ぎ資本家萬能主義を排し『デモクラシー』を高唱し從業員にして餘力の有する限り株主たるの權限を有せしめたるが如き以て從業員の經過並に奬勵法の一端を覗ひ知るに難からず更に資本金は拂込株金に仍て限定せられたりと雖ども機に臨み必要に應ずる金融緩急に至りて同業者中既に定評ある所であろう蓋し偉大なる金力を抱擁する點に於ては斯業者の追隨を許さずと云ふも敢て過言でない故に大藏、文部、遞信、鐵道、內務、司法、農省務等各省を網羅して常に事業の用命がある

重役諸氏　は左の如くである

取締役社長田中讓、常務取締役工學士田中革蕾、取締役松村雄吉、高木重兵衛、監査役山本房吉、佐藤治兵衛

因に社長**田中讓氏**は意思の人で現任市會議員に推され然も隱然たる一派の頭梁とされて居る、又常務**田中英語氏**は新進氣鋭の技術者で大正七年京都帝大工科出身、和歌山縣人で學校卒業後松村組に入り其の柱石となつて居る、又

山本房吉氏は岐阜縣の人始め第四師團經理部技手たりしが去つて松村組の人となり現に其監査役となつて居るが老練の技術家として名を馳せて居る、

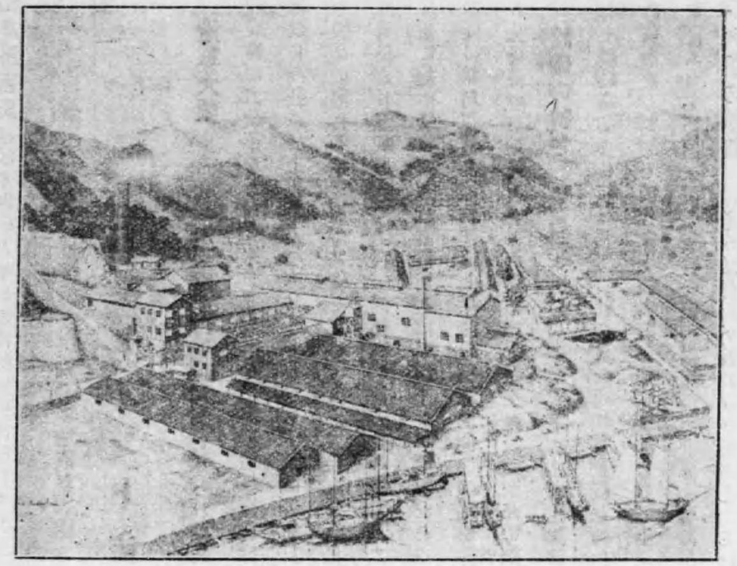
三、櫻セメント會社

（大阪毎日ビルヂング第四十九號室）

沿革大要　同社は明治四十四年四月創立せられ社長に田邊貞吉氏專務取締役に平賀敏氏就任し同四十五年工場機械の設備に大改革を行ひ從來の立直窯を廢して回轉窯を採用し其他電氣式自記高熱計、石炭粉末送粉機等新式附屬機械を新設せり茲に於て生產力增大せるのみならず製品の品質も亦面目一新した而して工場設備の革新と同時に輸出部を開設し製品の海外販路發展の基礎を定め、大正五年大分縣北海部郡德浦に地をトして第二工場を新設したのである、新工場は全長百廿五呎最大徑十呎の回轉窯を首め生產能力月二萬樽の附屬機械一切を具備し海陸運輸至便にして製品積出自在なるに加へ豐富なる社有石灰石山及粘土地に隣接せるを以てセメントの主要原料たる石灰石及粘土は居乍らにして供給を受け原料運賃の節約により生產費採算上他の追從を許さゞる特色を有する、大正八年三月大阪工場を閉鎖廢止し同年大阪築港社有地にセメント格納用倉庫を新設し製品の阪神地方並に輸出供給の便に供して居る、

設備の特色　我國最大直徑の回轉窯並に之が附屬機械として石炭粉末送粉機、電氣式自記高熱計等最新式の設備を有し廻轉窯の操作には凡て直流の速度可調電動機を使用せる事、石炭粉末送粉機を使用し普通行はるゝ如く微粉石炭の貯藏を廢し斯くして作業上失火等の危險を防止せる事、並に電氣式自記高熱計を用ひて作業中連續的に廻轉窯中の熱度を記入せしめ出來得る丈け一定の溫度にて燒成し製品の質品を常に完全均齊ならしむる等は製造上獨特の裝置であろう

內外の販路　同社が敢然海外輸出部を開設したるは實に去る大正元年四月である始め其だ不振なりしも不屈の努力



櫻セメント株式會社

により漸次其眞價を認められ歐洲開戰を見るに及んで遂に確乎たる販路を獲得し東南洋各地の商工業者に知悉せられ殊に印度各地にては本邦製セメントの權威として他マークに較べ市價一留比乃至二留比高を保ちつゝある、又內地にては夙に海外に於て英、米、獨の嚴密なる各種各樣の試驗法に合格し內外市場に高級**セメント**として市價常に一頭地を拔ける**櫻セメント**は由來一流の顧客を有し各種代表的建築物の主要材料として指定註文を受けしこと枚擧に遑ない彼の大阪朝日大阪每日の模範的大建築物たる何れも**櫻セメント**而已採用したのは其品位及聲價を事實に證明せるものである

重役諸氏 は左記の如くである

社長坂本已之松、專務鹽尻級長雄、取締役平賀敏、工學博士渡邊嘉一、監査役井上周、小西藤楠、

因に **坂本社長**は才氣煥發の士で而も沈重深慮あり漢詩を以て名を馳せて居る

四、錢高組

錢高組は土木建築請負を業とする斯界有數の業者である、最近建設されたる大阪市廳舍工事にも殆んど大部分を請負完成し尙市內建築物其他全國各地方の斯業に需用尤も多く甚だ有力なるものであるが追而詳記すべし

五、藤田組

藤田組は藤田男爵の一分岐事業たる土木建築其他の請負諸工事に從事する法人で資力の豐富なる大規模請負の特色に於て全國的に有名なるものである、

六、桝谷組

桝谷組は土木建築請負を業とする合資會社にして曾つて現任市會議員桝谷寅吉氏の主宰せし所であつたが兩三年前其令弟桝野和三郎氏が主として土木請負業を專攝して居る、而して一般斯業は勿論進んで上下水道工事に特種の機能を有し歩一歩信用を博して居るが同組の美點は其配下千數百人に對する主腦部の態度が恰も慈父の愛子に對する如く恩情感信共に行はれ一糸亂れざる節制を保つにある、故に請負工事の如きも節制を保つてゐる、故に請負工事の如きも正確なる時限と施業とを行ひ且つ利害を度外視して熱心なる從業をするのである、尤も先代桝谷氏は一流の俠義を以て九條一圓を開拓した人で苟も名目と意地に因つて一代を終り之れを遺訓としたものであるから今尙是針として居るは洵に當然であらう、尙同組は興業、製材、湯屋營業部を置き、住吉館、千舟館の活動寫眞と桝清湯、桝谷湯とを經營し此等は桝谷寅吉氏が主宰して居るのである、

七、其他各組

以上は斯界の只一滴に過ぎない、更に安田、平野各組の外大小を合せて二百有餘の同業者がある、著者は幸ひに版を重ぬるに從つて順次其内容を詳記する筈である、最後に土木建築業とは何等の交渉ないが茲に請負の點を共通する運送業者がある、大阪市の如き大都市に於ては著しく貨物の集散多きを以て業者も亦甚だ多いが茲には單に市會關係のものあり併記する、

仲田組　仲田組は鐵道省公認の貨物運送を業とする法人であるが現在では湊町驛の大半の運送業を一手に收め隆盛を極めて居る、同組は仲田太三郎氏の主宰する所其令息にして市會議員たる仲田由太郎氏が專務となつて斯界に覇を唱へて居るのである、

第六節　文化機具製造

茲に文化機具と稱するは電信、電話、電燈其他苟も舊時代に一新規畫をなしつゝある文化に伴ふ諸機具を指すものにして此等從業者が市運と社會啓發を爲しつゝあるは言を俟たぬ、今其主なるものを擧ぐれば左の通りである、

一、大阪電球株式會社

沿革の大要　大阪電球株式會社は關西唯一の電球供給會社にして始め大阪電燈株式會社に電球を供給すべく之が製

造事業を企劃し、明治四十年二月資本金三十萬圓を以て地を市外鷺洲町大仁に相し、故土居通夫、渡澄修、木村駒吉、大塚惟明其他の有力者に由り發起設立せるものである

營業の現況　爾來電氣事業の發達に伴ひ電球界は愈々多望となるに伴ひ會社の規模も漸次擴張せられ資本金を益々增加して現在二百萬圓となつた、殊に從來の炭素線、電球に對する需用は既に急轉直下の勢ひを以て、『タングステン』電球及瓦斯入電球に推移したので各種電球の製造販賣を開始し、米國ゼネラル電氣會社の採用せる最新式建築法に基ける、三層工場二棟相次いで建設せられ其宏壯雄大なる新工場は阪北淀江の畔に美觀を添へ内容を充實し之と同時に

大阪電球株式會社

同社が一時代を劃せるは米國ゼネラル電氣會社電球工場長シー、エービール氏の來朝を請ひ、親しく同氏に就き電球製造に關する秘傳を習得し、次で來朝せる同會社青年技術家中錚々たるシー、イー、ランドル氏の熱心なる指導に基きサン、マツダランプ製造に必要なる米國式最新設備を整へて今や技術工人共に其技術に熟達し完全なる域に達したのである、故に會社は此サンランプ製造工場の作業開始に伴ひ新舊兩工場の生産力を增大し愛に電氣事業界の要望に應ずるに足り、萬般の設備完整して關西唯一の電球供給會社となり將來益々發展すべきことは勿論、工場設備の更新、技術の進歩と相俟つて電球界從來の面目を一新し斯界に覇を稱し所謂模範工場の實を擧げつゝあるのである

電球の特色　會社の製品は米國ジー、イー會社の特許を使用して

製作する金屬線電球にして、光力明快、堅牢無比、品質優良を以て其三大特色とし、ランプ會社に專賣特許三四回變燭電燈球、裝飾用着色電燈球各種、變形電燈球各種等にして就中專賣特許エスアイ式三四回變燭電燈球は會社獨特の技術を以て製作せられ、他に見る能はざる發明品である

最近の成績……既に米國斯界の確實なる特許使用の契約に因りて無二の製品を供給する同會社は至難にして屢々同業者の沒落を傳へらるゝ時に當つても獨り有利な立場を持續し以て株主配當の成績を向上して居るのである、假りに最近に於ける狀態を以て立證すれは過日數箇年に亙りて優に平均一割九分の配當を持し其基礎の健實にして經營の安固不動なるは亦以て大阪事業界の誇りと唱へられ居る、今大正十一年上半期即ち自大正十年十二月一日至大正十一年五月三十一日の營業成績を見るに利益金三十四萬八千三百二十四圓五十錢内一萬五千四百圓法定積立、十萬圓別途積立、七萬五千圓株主配當、三萬七百三十圓賞與金、三萬圓建物什器償却費、二萬五千圓退職慰勞基金等を差引五萬二千百九十四圓五十錢を後期に繰越して居る則ち配當金は**年一割二歩**に相當するのである

同社の組織……同社は殊更に相互的方針を採つて社員工手等の家族的精神を養成して居るが内容は社長一、取締役六、監査役三で此外取締兼支配人及び技師各課長を加へて幹部として居る尙更に男女職工四百餘名を有し悉く熱心に會社事業に從事する、今重役及び各課長を摘記すると左の諸氏である、

取締役社長渡邊修、取締役木村駒吉、ジエー、アール、ギヤリー、立川勇次郎、山口喜三郎、シー、イー、ランドル、取締役兼支配人内村謹爾、監査役星野行則、大井卜新、土居剛吉郎

技師長工學士大島弘義、庶務課長法學士谷仙吉、經理課長木田正治、技術課長兵頭勝、營業課長高橋米太郎、各氏が頭腦を絞つて社運の隆盛を畫策して居る、以下少しく二三の幹部に就いて知る所を擧げやう、

社長 渡邊修氏

君は曾つて大阪電燈會社常務取締役として同社經營の衝に當り電球會社創立に當つては殆んど一身を以つて之れに盡した人である爾來引續き社長となり一方愛媛縣選出代議士として政客たり更に大阪三品取引所、宇和島水電、愛媛水電日本瓦斯等の重役を兼ね實業界に甚だ勢力を有つ、

取締役兼支配人たる**内村謹爾氏**は親分肌の好紳士で事業界には新進氣鋭の手腕家として囑望されて居る、其勞働問題に對する識見は著しく核心に觸れ苟も人を傾聽せしむるものがある、君は日夜殆ど寢食を忘れ熱誠に社務を執り渡邊社長の女房役を竭し經營施設の實際に當つて居る、電球會社が今日の隆盛を招徠したのは蓋し君の力浸すべからざる賜物と云つてよい君は東京の人、人格圓滿にして膽力丹田にあり親む事望洋春の海の如く接客知人を反らさない、

技師長**大島弘義氏**は新進技術家の雄として蘊蓄深く、東京帝大工科を出身して多年技を練り後歐米を遊歴し具さに彼地の電球製造の實況と其秘術を習得し來り會社製品の選善を計つて居る人、

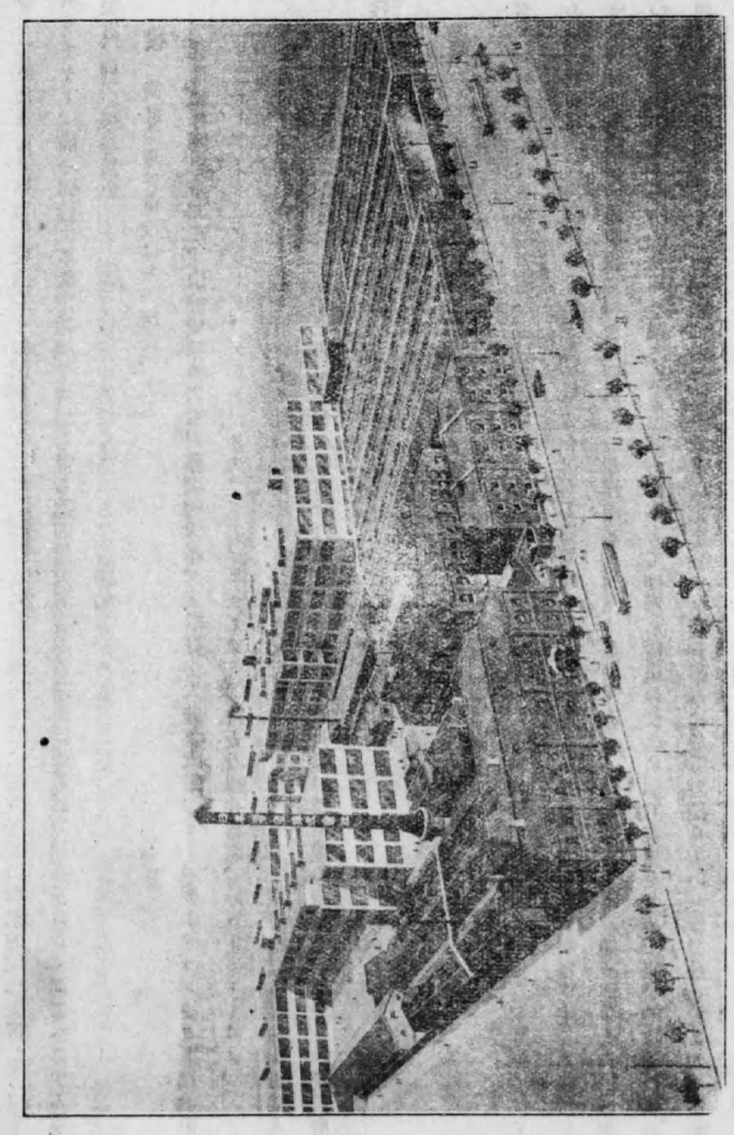
庶務課長**谷仙吉氏**は明治三十九年の東京帝大法科の出身で名利に淡く早くより實業界に投じて自ら之れを經營運用

したが後電球會社に入りて其智囊となり限りなき事務の才と從業者の操縦力とを傾けて會社の柱石となつて居る作業課長兵頭勝氏は東京高工の出身絶好な紳士で衆望を擔つて居る、

二、日本電氣株式會社

沿　革　同社は本社及工場を東京市芝區三田四國町三番地に支社を大阪市東區北濱二丁目三十番地に出張所を大連及京城に有する通信機具供給會社で明治三十二年の創立に係り一千萬圓(八百七十五萬圓拂込濟)の資本金、建坪五千五十七坪の工場、一千二百六十人の職工を包擁し電信電話用通信機械器具材料、電燈電力諸機械、電信電話用鉛被ケーブル同エナメル局内ケーブル、電氣測定器具各種絶縁材料及び工具類一切の製造及直輸入販賣竝に電氣工事の設計監督を主たる營業科目とし特に各種電話機、電話交換機、ケーブル、絶縁抵抗測定器等は同工場に於て最も得意とする製品にして一箇年の製造能力は約十萬箇電話交換機約一千六百臺に上り夙に品質優良主義を以て終始不變の方針として居る

特　長　同社の提供する電話交換機及電話機類は其設計内容の精緻完全であるは勿論之に使用する部分品には數多の特許品及舶來の優秀品を選擇すると共に熟練せる技術者及職工が多年の經驗と研究と蘊蓄とを傾けて丹製製作の事とて其作品の精巧優良なると隨つて通話能率の高きこと特に其ライフの殆んど永久的に長く好評ある、又同社は通信機具の製造に於ては世界第一との定評ある米國ウエースターン電氣會社と同盟會社であり同會社が年々七百萬弗の經費を投じて苦心研究したる有益なる發明其他の結果は何等の惜氣もなく又何等の制限なく同社へ通報して參り自由に之を採用することを認容して居るから同社は他同業會社の到底企て及ぶべからざる特權と多大なる便益とを握つて居る譯で其名聲の年々益々隆々と揚がりつゝあるは決して偶然ではない最近同社が取扱つて居る新規有益なるものゝ中交換手を要せざる自働交換機及室内電話機(インターフォン)、高聲電話機(ラウド、スピーキング、テレフォン)、自働車用電話(ショ



日本電氣株式會社

ーフォン）鐵道及電氣軌道の輸送力を圓滿增大するに必要なる列車運轉用電話、電燈電力の理想的配給裝置たるロードデスパッチャー、同一同線に多數電話機を連結し得る選擇信號裝置附電話長距離電話の通話を近かく聞こへさする電話中繼裝置、細い線を用ゐて太い線と同等の通話を與へる裝荷線輪等がある

重役　同社の現任重役は左の諸氏である

社長兼專務岩垂邦彦、取締役畑英六郎、藤瀨政次郎、工學博士大井才太郎、ビー、ケー、コンヂット、中田綿吉、エー、ジー、ゼラード、デイー、エフ、ジー、エリオット、監査役藤井諸照、ハロールド　ベル、

因に大阪支店は同社の分身として事實上本社の延長であるが現任支店長は神田喜三郎氏で同氏は三重縣龜山町の人、久しく遞信省通信事業に從事した人で殊に三十八年朝鮮の通信機關を我國に引繼の際手腕を發揮したので一時統監府通信管理局に轉じたが大正八年官を辭し電氣會社に入社したのである、

三、日本エレベーター會社

日本エレベーター會社は最近建築樣式の遷移に伴ひ漸く勃興せんとする人乘用荷物用各種の昇降機を製作販賣する會社である、我國現今の建築界は急に古來の樣式を排して洋館建を歡迎する事となつた、而も此趨勢は住宅に事務所に苟も大會社銀行其他都市風致を成すべき一切のものが洋館式を採用するのである、殊に我大阪市の如き逐年人口の增加を見且つ市井地面の益々經濟的使用を强ゐらるゝ都市にありては寧ろ從來の如き平面的建築を改めて立體的建築に就くのが至便であり實用的である、此傾向は獨り我大阪市に止まらず全國各都市に於て皆然りであらう、茲に於てか立體的建築物に必要なる昇降機の發達と需用を促すは洵に當然な次第である、則ち日本エレベーター會社は時代の要求に應じて

其此れを供給すべく大正八年資本金五十萬圓拂込二十五萬圓を以て創設せられた、始め東松孝時氏が個人で經營しつゝあつた工場を基礎とし建築界の權威たる片岡安博士が指導となり久保田權四郎、仁科貞一、立川龍、立川勇治郎、井上國助、谷民藏、東松孝時、松尾岩吉の諸氏が協力の上創立に當り其後社長片岡、專務取締役東松、谷、取締役立川龍、瀨戸文吾、監査役田中豐輔、松尾岩吉、相談役立川勇治郎諸氏の顏觸れで業務を執行し來り年々好成績を擧げ株主配當も年一割を持續し全國各官衙の用命は勿論各會社銀行に其機を用ゐらるゝ盛況に至つたのである、

營業種目　は東松式各種人乘用荷物用エレベーター各種電力手働リフト、各種コンベヤー、エスカーレーター、ケーブルカー其他捲揚機械類を製造設計し販賣するので事業特色は專賣特許權を得たる機械を供給するにある、而して特許權は既に六種類に亙つて居る、

營業所　同社の營業は劍途益々有望ならんとして居る從つて目下業務擴張の途にあるが現在の配置は左の如し

本店……大阪市東區中道川西町五六一の二……支店……東京市丸の内海上ビルヂング六階因に支店は之れを出張所として關東方面の需給關係を司つて居る又特約店を設けて特約販賣を試みて居るが凡て高田商會の本支店出張所を以て之れに充てゝ居る

四、須賀商會

須賀商會は最近發達の洋式建築の諸裝置機具を販賣する商會である、同店は最新式の水道衛生暖房、溫水、灌漑等の工事を專業とし汎く各方面に需用者の需めに應じ其事業擴張を試みて居る、抑も我國固有の生活狀態は文化程度の進むに從つて益々改善すべき餘地を發見され尙經濟的なる改良を加へねばならぬ有樣である、殊に常住座臥悉く文化機具の

利用を行つて從來の陋習を打破すべき域に達し而して生存競爭の活舞臺に飛躍する能率の增進を齎らすべき時代に遭遇して居る、加之我國都市發達の史を顧みれば建築樣式は勿論生活狀態將た亦社會萬般の活動は凡て時間の經濟、消費經濟、便否の考察等を基調として日々に遷善しつゝあり、官衙、銀行會社等苟も公私の事務に至つては殆んど全部が泰西の例に倣つて洋式を採用して居る、從つて此等の要求に應ずべき諸裝置機具の供給と工事請負は是非とも缺くべからざるものである、

須賀商會は則ち此機微に觸れて明治三十五年斯業に從事したのである、始め須賀豐次郎氏獨立を以て小規模に開店したのであつたが當時水道、衛生暖房諸工事に著目する者なく本邦に於ける斯業の嚆矢であつた爲め頗る歡迎せられ好評を得た、從つて內容の改善を行ひ時代の要求に應ずべき必要上須賀氏は特に大正九年十月米國に渡航し汎く視察を遂げ習十年歸朝するや營業の內容を改竄し茲に大規模の店礎を確立したのである、

營業種目　謂ふ迄もなく營業は上下水道工事暖房衛生工事を始め其器具の製作設計等を含み尙此種類似の事業を釀用のまゝに應ずるにある、而も其特長として正確に急速に行ふの外責任を永久に保有するのである、大阪に於ては然るが故

に公私の兩方面に非常の根據を据へて居る、之れを今日迄の成績に徵する時は市內の大小建築に必ず參與し更に全國到る所の都市にも工事請負しつゝあるを以て自ら有力なる立證となつて居る、

營業所　同商會の營業所は左の如し

本店……大阪市東區今橋四丁目、支店……東京市淺草區藏前、名古屋市西柳町、京都市烏丸二條上る、神戸市北長狹田通二丁目

店の組織　同商會の組織は個人經營で須賀豐次郎氏主宰し其下に實弟たる須賀藤五郎氏ありて庶務萬般の指揮をなし庶務營業、技術、各部がある、而して優秀な人材をして其分擔事業に當らしめて居る、今其個人的評を試みんか、須賀豐次郎氏は剛氣達觀の士にして正確なる推理と實行力に富む人、須賀藤五郎氏は隱忍自重以て建設的才能豐かにして謠曲淨瑠璃を好み動中靜ある士である、而して事務を代辨する阪本常次郎氏は既に十有餘年店主と生死を共にし忠勤以て中興の業を完ふせし人物で技術部に參する獨逸人ヘンリー君は六尺二寸の巨軀を携げ氣輕に面白き快男子で正鵠な技師大正九年四月獨逸より技術施工の爲め派遣されて其儘須賀商會に入つた人である、又技師中島彥六君は大正十一年の京大工科出身、同內田成之君は大阪高工機械出の新進揮ひである、

五、大阪電氣商會

大阪電氣商會は菅谷元治氏の創設しだる電氣諸工事請負を目的とする合資會社である、而して明治三十八年業務を開始し宮內省を始め大藏省、鐵道省其他大阪、東京各地方並に全國到る所の官衙會社等の室內引込屋內電氣工事、送電線特別高壓送電、外線工事、信號燈、電燈、煙突、汽罐、喞筒、起重機避雷針其他各種取付改修等の事業に從事し來り斯

界に動すべからざる勢力を張つて居る、最近に至り更に業務を擴張して關係工事の請負をも併せて執行する事となつたので著しく需用率を增しつゝあり、而も其姉妹會社たる

大阪暖房商會 は同じく之れ菅谷氏の經營する所にして暖房機具の販賣同工事請負等を專業とするもので大阪市廳舍の建築を始め其他全國各地の暖房工事に參し好評を博して居る、同店の營業所は

本店……大阪市西區江戸堀南通一丁目三十七番地……支店……東京市京橋區紺屋町五、名古屋市東區東本重町二丁目九番地

而して電氣部は菅谷氏主となりて業務に當り暖房部は其息にして大阪高工出身後船舶機關暖房等に經驗を積み且つ機關車の設計に從事した菅谷一郎氏が專ら其衝に當つて居る、因に暖房商會の業務は低壓蒸氣式、給湯裝置、溫水式、乾燥機傳動裝置其他各種需用に應ずる譯である、

六、松尾商店

松尾商店は松尾和助氏の經營するものにして各種機具の販賣は勿論金庫其他の文化的建築資料を供給する大阪有數の商店である其内容等は追而て詳記する事とすべし、

第七節　紡績業

紡績業と大阪市とは一見何等の交渉なきが如く直觀するが深く考察すれば種々な點で直接間接關係ある事を發見する

卽ち先づ商取引の方面よりすれば株取引の雄なるは蓋し紡績株であり關西地方に行はるゝ絹綿布事業者の資料の供給者であり且つ海外貿易の一角を爲すものは之れ亦紡績業である、而して一面に商業工業の大阪を謂ふべくんば是非とも之れを數へねばならぬものがあるのである、則ち概論ではあるが關係の密接なる今更喋々を要せぬ、（尤も此點は他日詳論する筈である、）而して現在全國的に將た世界的に著名なるは鐘ヶ淵、東洋、合同、福島各紡績會社であつて各々大仕掛の設備を爲し多額の生產を行ひ以て需用を充たして居る　其各會社別詳論は之れを他日に讓る事とする、

第六章　民衆娯樂機關

第壹節　概論

大阪市の民衆娯樂機關には都會人の心理狀態に參酌して大小上下各種各樣のものあるが之れを大別して物質慾、精神慾、及び慾を滿足せしめんとする三種類に區分する事が出來る、而して肉慾に備ふものは遊廓、花柳界等であるが本著には之れを省略し即ち物的、心的要望に連れて發達せる娯樂機關を摘記す、其物的慾に反應するものには嗜好と奢侈と必要との各末端を一招したるデパートメント式設備ありて重に各大吳服店の考案に成るものが多い、更に心的慾望に應ずるものには演舞、演藝其他藝術的設備ありて及ばずと雖も民衆娯樂の一端に資して居る以下節を分ちて其內容を記すであらう、

第二節　吳服店

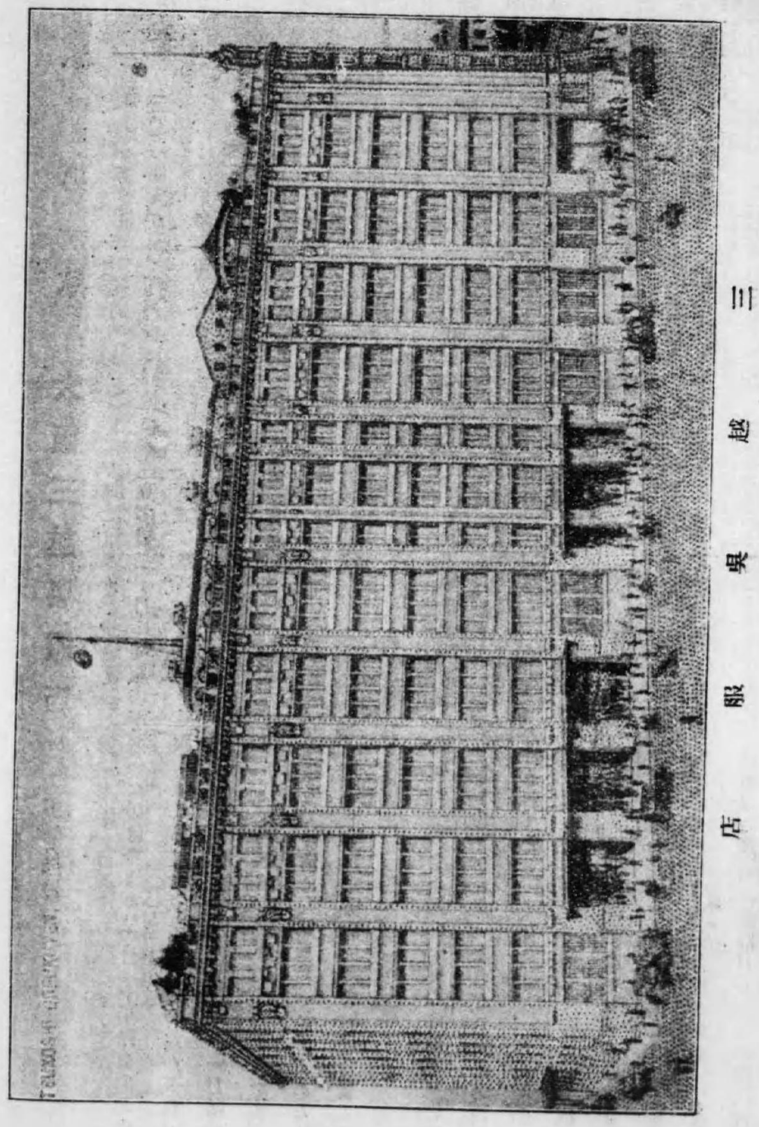
茲に吳服店と稱するは主として民衆娯樂を主眼としつゝデパートメント式を利用して且つ夫れ自家營業の隆盛を計り時に應じては社會民衆の爲めに各種の有益なる會合即ち展覽會講演會其他を主催し若くば爲めに開放する設備ある吳服店を指すものにして三越、白木屋、高島屋、大丸、十合等の如きを筆頭とし其他丸紅、稻西等を加へたるものを謂ふ、勿論列記外の各大吳服店をも含むべしと雖も先づ以て以上を記述すべし

第一款　大阪三越吳服店（堺筋高麗橋）

沿革　三越の祖先が京、江戸店と同樣に浪速高麗橋二丁目に吳服店を開いたのは今より二百三十年程前の元祿三年で越後屋吳服店は江戸駿河町の分店として開店したのに起因する越後屋吳服店は次第に人氣を加へ來つたが天保八年に大鹽の亂に依つて砲火の災に遭ひ倉一棟を殘すのみで燒き盡された、併し直に再築に取懸り天保十一年十一月竣成し南側の吳服店、北側の附屬店とも以前より遙に美事に出來上つた、十棟の倉庫に吳服類を詰め附屬店として人形店、紅店、糸店、雛甲店、道具店、鏡店、縫屋を設けて專ら客の便利を圖る事に努めたので非常に人氣を迎へたのである

明治三十七年營業組織變更四十年四月の再開店に引續き增築に增築を加へ大正六年十月には滿三年の日子を費したる七層樓の大建築も竣成を告げ永久的の繁榮を招來する基礎は成つた

新裝の三越　今此建築の內容を簡單に說明すれば橫河工學博士の設計に係るルネツサン式の七層樓は地下室に屋上庭園を加へて二千七百餘坪高さ百二十餘尺の鐵骨、鐵筋コンクリート造り宏壯なる建物である、入口なる玄關の內部は深綠色の大理石を以て飾られ七階に通ずる各階の階段も亦純白の大理石にて疊まれてゐる、米國ォーチス會社製のエレベーター二臺あり買上品の運搬を迅速ならしむる爲めにスパイラルシュートが六階より一階まで通してゐる、休憩室及喫煙室は殆ど各階に設けられ二階の休憩室はエリサベサン式、三階のはヂョルジアン式で四階にはセセッション式の喫煙室がある更に五階の貴賓室に至つてはルィ十六世式の最も善美な裝飾を施したものである、此外五階には應接室があり殊に婦人客の爲めには二階の西南隅にコロンビアアダム式の化粧室の設けあつて化粧專門の女店員が詰切つて居り身繕ひの用を便しなほ特に婚禮其他に込入つた誂物に對しては三階和洋折衷の瀟洒な御誂別室の設けがある六階の西部見



呉服店

晴らしの好い場所にセセッション式の食堂あり寫眞部は採光の必要上最高層の七階に設けられてあるが之れに附隨せる日本式及洋式の化粧室は撮影前後の裝身の用に充てられ其設備は全く整備してゐる、屋上庭園にあつては其展景の壯麗なる一眸の下に北攝の野を眺め得べく遠く茅海を隔てゝ淡路島山も望み得られる、奏樂堂には三越少年音樂隊の演奏がある、またこの屋上の東部には凌雲亭と稱する御茶室があつて其結構瀟洒を極めてゐる、

商品陳列　一階より七階に至る各階の陳列場には有らゆる三越の販賣品が最も見易いやうに分類的に陳列されてある、今一階より順次部局賣場の配置を列擧すれば一階には萬御案内係、御注意承り係、商品券係、靴鞄部、傘下駄部、食料品部、經節部等あり二階には四番賣場、洋品部、化粧部、御化粧室、休憩室あり三階には一番賣場、二番賣場、三番賣場、五番賣場、十番賣場、休憩室、模樣部等がある、四階には小兒部、文房具部玩具部、袋物部、出來合品部、喫煙室あり五階には洋服部、髪飾品部、貴金屬部、貴賓室、應接室があり六階には新美術部、茶部、食堂あり七階には寫眞部及展覽會場、八階には展望臺茶室奏樂堂がある

商品の充實と新部門とは七層樓の館を以てしても猶陳列場其他各係の全部を包擁することが出來ぬので舊館をも並用してゐるが新館と舊館との通路は新館二階の東側北寄木綿賣場の一部より東に通じて舊館の階上に出る事になつてゐる舊館階上には家具裝飾部があつて和洋家具類一切室内裝飾品の外、室内裝飾の設計をも取扱つてゐる、

催物　更に賣場以外の諸般の設備を見れば三越は常に清新なる趣味の鼓吹に努め流行の先驅を以て自任することゝて技巧構想に卓越したる畫家十餘名を聘して日々新圖案の製作に丹念せしめてゐる、二階模樣部には裾模樣、長襦袢帛紗、帶地など各種の新しき模樣雛形類をいろ〳〵蒐集して清覽に供してゐる、若し其等雛形で氣に合はぬ場合あらば好みに從つて如何樣にも圖案を揮毫するのである、屋上庭園なる奏樂堂に於ては各方面の園遊會招待會等に於て常に好評を博せる三越少年音樂隊の演奏をなすのである此音樂隊は二十餘名の可憐なる少年樂手を以て編成せられ吹奏樂を主

こし室内演奏等の場合には管絃樂をも奏する外廣く出張演奏の求めにも應じてゐる、

特　長　客本位を以て信條とする結果一旦賣渡したる品物も萬一客の氣に合はぬ場合には特殊の商品を除く外何時にても又何回にても好みの品物と取替へる買上品は指圖により大阪市内何處へでも迅速に届けるのである、なほ客の便宜を計り特に電話販賣係があつて自ら來店したると同樣の便宜を提供してゐる、此等の用命に應ずべく多數のメッセヂャーボーイ及自働車、馬車其他の配達機關は遺漏なく完備されてある、御進物と土産物とは當店の誇りとする所で殊に商品券は手輕で體裁よく且東京、京城、大連の各本支店共通の出來る爲め極めて便利多く金一圓以上何程迄も調製するかくて司店は大阪名物の一と稱せられて居る

第二欵　白木屋吳服店

（堺筋瓦町停留所）

白木屋吳服店は我國に於ける十大吳服店の一にして大阪五大商店の稱ある所、其沿革や頗る由緒あるもので德川幕政の頃より漸次膨脹し來つたのであるが現實主義と民衆の利便とを主眼とする同店は沿革の古きを數ふるよりは寧ろ實際供給關係の至便ならん事を庶幾し茲に全力を傾注して居る、同店は勿論民衆娯樂に備へんが爲め商品の集合制度を採用し其店舗を開放して凡ゆる需用家の便を啓き日用品を始め其他を陳列供給するデパートメント組織を用ゐ、兼ねて美術方面や娯樂的趣味を增大すべき各種の催し物を主催し又は優秀なる斯界の企畫者に會場を提供して居る、之れが爲めに最近新裝の大建築を致し愈々其商的地歩と社會奉仕の域を擴大するに至つたのである、

新裝の白木屋　曩に大阪市内の大吳服商界には三越の新設大店舗の竣成と共に民衆娯樂を加へたるデパートメント式を採用するの風翕然として起り民衆も亦需用上出來る限り開放されたる店を要求する傾向多き爲め同業者は悉く舊來

白木屋吳服店

の古店舗主義を去つて新時代の所要に應ずべき必要に迫つたが白木屋は早くも事情に顧みて宏大なる大建築を行つた、則ち大阪市東區備後町二丁目五十六番地市電瓦町停留所前をトし經費二百七十萬圓を以て大正九年十二月起工し同十一年九月に至の竣工、玆に總坪三千餘坪八層階の大洋館、高さ百七十尺の美裝が成り同年十月一日開業したのである、而して

店舗の陳列 を見るに、**一階**には菓子、食料品、海產物、罐詰、和洋酒、銘茶、鰹節、傘、足袋、履物商品券、**二階**には縞、絣、木綿裏地、實用きれ等の木綿類セル、ホル、モスリン類仕上り品、呉服細工物、夜具、座座團、**三階**には丸帶、片側帶、友禪、御召小紋類、白縮緬、白羽二重模樣類、銘仙、節糸、紬類、高貴織、男帶、袴地等を陳列し此外日本間及び喫煙室を設けて顧客の便を計り**四階**には婦人休憩室あり、半襟、呉服小物類、絹布實用きれ家具、敷物、陶漆器、食器、臺所用品電氣器具**五階**には一般休憩所ありて洋服レデメード、二十四時間速成服、外套コート洋服附屬品、シャツ、帽子、靴、鞄膝掛、化粧品、藥品部、袋物等あり、**六階**は美術工藝品、支那雜貨貴金屬、時計、小間物、造化、煙草等を陳列し食堂の設備ある、**七階**は兒童休憩室あり專ら兒童用品を備へ、玩具、運動具、文房具、**八階**は寫眞部で其機具並に繪畫額等あり外に大洋食堂が設備されて居る、屋上は展望臺であるが種々の催物は凡て八階で行はれる、

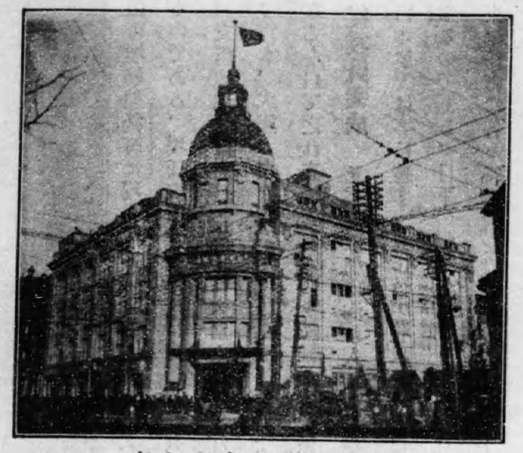
營業の特色 同店營業上の特色は自ら宣傳するが如く事實**買ひ安き店、安く賣る店**…の點にある、之れは一般商人が誇張的にする標語とは異つて近代の傾向に察し消費經濟の合理的理由に基いて民衆の利便を專ら計り品質を尊び價格を能ふ限り低廉ならしめ其間の中間利得を僅少にして然も需給關係の上に一新紀元を啓かんとする努力である、抑も同店は資本金千五百萬圓の**株式組織**で西野惠之助氏を社長に戴き大阪、京都、東京、横濱等の各大都市に古くより

白木屋呉服店陳列の一部

營業を試み近くは神戸市にも支店を開設せんとして居る大商店である、從つて必ずしも少利を剩さず吸收するの要はない優に年來の顧客頗る多く勢ひ薄利多賣主義の是針を採つて足りるのである、況んや遙くも自ら安く賣り買ひよき店と標榜す亦故なきに非ざる所であらう、

商範圍と組織 白木屋呉服店は東京市日本橋通りに本店を有し、出張所を大阪梅田、東京丸の内、横濱市相生町の三箇所に置き仕入部を京都市堺町二條上る所に設け支店として大阪市堺筋備後町に現在するのである而して大阪支店は要するに本店同樣の重要營業所であるから支店長も亦頗る人選するのである、現任梅田健次郎氏は力量手腕共に頭角を現せる人、副支店長江波清次郎氏も立案商畧に達したる士である、支店の內部は商務と庶務に大別し前者は江波氏後者は篠原仙市氏長となり庶務には大塚、杉野、原田、中村、河合森、宮本、大熊、白鳥、石川、佐久間等の諸士が、錚々として係長の責に任じ補佐する、商務の下には所謂營業部の所以なるを以て之れ亦優秀な人物を網羅し廣告係を置き元萬朝報(東京)社員たる米林武雄氏が前衛となつて貢献して居る

從業員養成 元來商取引は洵に人情の機微を穿たねばならぬものである、從つて多大の修養を要する、此意味に於て白木屋では客に接すべき店員の養成を葬りに致して居る、趣旨として商品に趣味を有ち實務に圓滿如才なからん事を期するのである、目下の從業員は約千名以上に達するが靑少年を多數とするを以て特に靑年寮を東區瓦町に少年寮を北區東堀川町に各々寄宿舍を設け收容し又大正十二年には社員の社宅を京阪沿線香里に開設する筈である



白木屋呉服店東京本店

◇ ◇ ◇ ◇

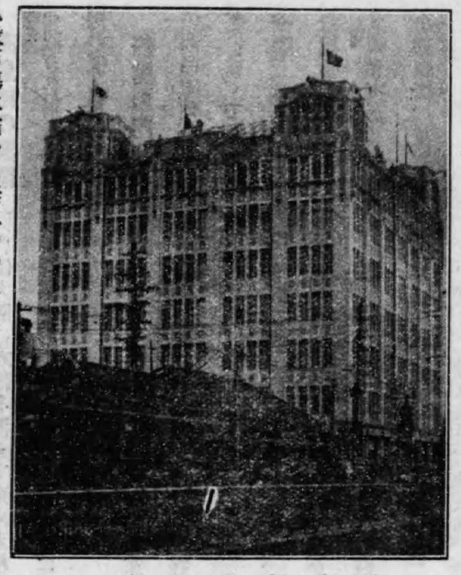
第三欵　高島屋呉服店

大阪堺筋長堀橋南詰に屹立する近世復興ルネサンス式七層樓の白亞館は大阪五大呉服店の一なる高島屋の新裝である三越、白木兩店に摩天を竟ひ方形に新築された建坪は凡て四千餘坪で堺筋の大道に風致を添へると共に廣く一般の目標を成して居る、抑も高島屋呉服店は其沿革古く過去百數十年間牛歩乍ら健實に大を成して來た店舗である、而して最近

白木屋呉服店陳列の一部

に至つては所謂民衆趣味の變遷と娯樂的所要との機微に觸れ先んじて時代に順應し又以て自家營業の旺盛繁榮を啓きつゝある呉服店である、

營業の方針　其營業上是針とする所も從つて民衆の利便を主眼とし需用者本位に種々取り極めて行くのであるが先づ以て主觀を脱し偏へに『客の高島屋』てふ標語を觀念し日用品、雜貨數十種の商品をしてデパートメント式に販賣し而も呉服營業を行つて居る、而して店舗は顧客の爲めに全然開放し富貴貧卑の差別なく皆平等に需給關係の圓滿を計るのである、從つて同店は力を傾けて營業上商品の良質にして廉價を期し内容充實を尊び實質主義を特色に進んで居る次第である、殊に自ら民衆の娯樂場を以て任ずる爲め**各種の催物**の如きは大阪の代表的催物を選び絶對に營業的氣分あるものを排して社會に貢献すべく努力するのであるが最近に於て近松風俗展覽會、世帶の會、鐵齋畫會等を開催し斯道の範を示した、今後も通俗的のものを開催して尚一層民衆と高島屋との接觸を計る筈である、



高島屋呉服店

其の特長　叙上は同店の特長の一であるが更に一歩を進めて考察すれば消費經濟の思想起るに及んで試みたる私設市場は確かに無二の特長とすべきであらう、市場は同店の一階に開設し青物、魚類其他各種の日用品を供給するもので場所を無料提供し責任を重んずる商人に顧客の需用を充たさせる方法を採つたから公設市場よりも安價になつて居る之は要するに同店附近の人氣を巧みに吸收する方法を設けたさは雖も社會奉仕の見地から斷じて將に特筆に價する點

である、又同店は館内各所に萬案内を揚げ大學出身者三名を專任して人事其他の相談や案内をして居る、尙從業員に對しては補習教育、寄宿舍の設備を成し、店員には社宅の設けをするのである、

高島屋の業績　同店は大阪に本部を置きて東京京橋區南傳馬町に支店を啓き更に京都市上京區烏丸高辻にも營業所を置き各別途會計を以て營業をして居る、而も其業績は極めて良佳にして關東西に盛名と信用とを獲ち得一方宮內省御用の榮も屢々擔ふのである

新館の內部　新館は大正十一年初秋に竣成して以來內部の商品陳列を急ぎ斯界に雄視するに至つたが陳列の狀態は次ぎの如くである、

一階　は萬案內商品券、食料品部、經節、銘茶、洋酒、罐詰傘履物、化粧品、乾物部等を、**二階**　綿布、洋反物、仕立上品玩具、文房具、運動具、休憩室の設けあり **三階**　絹布類全部小物賣場、座賣場、悉皆部の外休憩室、小催物あり **四階**　洋服、小供用品、メリヤス、帽子、婦人雜貨、糸袋物、靴、鞄頭飾品部、貴金屬、時計等の陳列ありて貴賓室を設く、**五階**　和家具、敷物部、室內裝飾日用品廉賣所、休憩室、家具圖書室、設計、刺繍品部、**六階**　美術部、支那部、大催場、日本間、展覽室、**七階**　日用品部、炊事用品、家庭用品、陶磁器、漆器洋食具、接待室、大食堂、**八階**　小供の家園藝館等の外は露臺である、

因に同店は外商部並に通信販賣部をも有して相當なる成績を擧げて居る

高島屋內部

第四欵　大丸吳服店

株式會社大丸吳服店は資本金千二百萬圓を以て大正九年四月創立されたのである尤も從前と雖も個人經營より合資組織に進み更に株式組織に改革したので同店の沿革は啻に年限淺きものとは言はれない、現在までには既に東京、京都、名古屋、神戸、大阪各大都市に非常な信用と基礎とを有して居たもので敢て他の五大吳服店に優るとも劣らぬ老舗である

現在の營業　偖而幾多變遷を重ね營業上の變革に遭遇したる大丸は益々健實の途を辿りて現在に至つては營業範圍を切り詰あて只管內容充實に意を須るて居る、則ち本店は大阪市南區心齋橋筋一丁目に置き支店を神戸市元町四丁目に設け尙京都方面の顧客の利便を慮りて京都市四條通に店を開いて居る、何づれも最新のデパートメント式にして諸雜貨日用品並に吳服物一切を陳列して一ヶ所萬能主義の下に顧客本位の營業を試みるのである、不幸にして、京都大丸は先年馬舞の災に罹り一時烏有に歸したのであつたが再び新館の創設を計畫し近く營業を續ける筈である

現任重役　株式組織に改めた同店は大ひに人材を糾合して店運の啓發に資する所があつた、現に左記諸氏を重役に擧げて萬般の業務に當つて居る

社長下村正太郎、專務美川多三郎、取締役、下村和之助、森八郎助、西村齊太郎、上野榮三郎、大石喜一、下村昇之助、市田彌三郎、市田文次郎

沿革の大要　大丸吳服店は開業以來今日迄に二百有餘年を經過して居る、當主即ち社長下村正太郎氏は開祖十一代の孫に當るのである、開祖は名を市之亟と稱する人で信長記に記さるゝ如く三好家の家臣であつたが後伏見町に隱れ家

計を支ふる爲めに寺小屋を開き代々儒を以て暮して居た、然る其子彦右衛門氏は大ひに稽ふる所あり正德年間大阪京都等に呉服の行商を爲し始めて大丸の名を築き上げたのである、其遺訓に曰く『義を先にし利を後にするものは榮ゆ』とある、同店は其後此方針に則りて着々業務を擴け大方顧客の信用を博し薄利多賣の特色を樹立した而も最初名古屋に店を設け享保十一年大阪市に店を開き文政二年には神戸市に店を致し併せて京都とも四ヶ所に舗を張り榮昌を極めたものである・併し乍ら好事魔多く大正三年に至りて悲風一時に訪づれたが上野、美川兩氏の大手腕家を得て漸く難關を切り拔け却つて營業方法の時代化を計つた爲め降盛に赴いたのである、而して最近には大阪本店をば大々的の擴張を成し三期に工事を完成する事とし其第一期工事は落成目下之れに據つて各種の有益なる催物を試み專ら營業の啓發を爲すと共に民衆娯樂の向上に資して居る

叙上の外更に十合、稻西合名、伊藤忠、石川、平龜、柏原等の呉服店ありて列記の各店と研を競つて居るが凡て改版を俟つて詳記するであろう

第三節　興行物

民衆娯樂機關としては專ら自家營業の顧客拾集策に資する爲め進んで諸設備を試みるものと全然娯樂機關其ものが營業となつて居るものゝ二種ある事は既說した地である、而して本節には則ち營業の主體が娯樂機關である興行物を列記する、が大阪市内には新世界、千日前、九條等の殷盛地域ありて市民竝に地方人の擧つて參集する所となつて居る、從つて興業物は數多軒を列ねて茲に設けられて居るが現在の活動寫眞及び劇界に於て雄視するものは松竹合名、と八千代

座系統である事は何人も異論がない、故に其一般的參考として松竹、八千代、兩系統の概要を記すであろう

一、松竹系

松竹會社は日本劇界に於て獨歩する劇場經營者である、全國に亘りて經營するもの甚だ多く一々枚擧の遑がない、只夫れ大阪市に於ても八ヶ所に之れを有し而も民衆の氣勢に順應すべく各種の演藝題を試みて居る、元來同會社は白井松次郎、大谷竹次郎兩氏の所謂重鎭が主腦となつて居る關係上頗る强固なる地盤を有して居る今直營の各座を左記する、

イ松竹キネマ　同社は大正九年の創立にかゝる帝國活動が五百萬圓に增資と共に改稱したるもので同十年五月松竹キネマ合名を買收以來斯界に覇を爲して居るのである、殊に大正十一年に至つては大正活映株式會社と併合提携しキネマ會社は營業に關する一切の業務及び日本映畫の製作を擔當し後者は主として輸入映畫を齎當する事となりて益々社運を固めた目下直營、歩合特約の各常設館のみでも全國を通じて實に三百餘に達して居る・又は**映畫の撮影所**は設備の完全なる我國第一の稱あるが製作に從事する總人員は四百餘名に達し俳優も井上正夫一派の重鎭多く女優は川田芳子、栗島すみ、五月信子、鈴木歌子、酒井よね子等約五十名を數へる、又舊派は澤村四郎五郎一派七十餘名で東京市外蒲田に在り面積六千餘坪である、尙**同社の重役**は左記の如くである

社長大谷竹次郎、常務、白井松次郎、新免彌繼、取締役田村壽二郎、監査役平井權七、關直彦、支配人堤友次郎、營業顧問太田勇之進、營業部長山本吉太郎、撮影部長野村芳國、(以上東京本店)更に大阪支店は支店長白井信太郎、經理部長井上重正、營業部長篠山吟葉

ロ劇場　而して同社の經營する各劇場に就いて記せば左の如くである

中　座は道頓堀にあり浪花劇壇に由緒多きもの丶一にして松竹經營となりてより常に我國固有の藝術に資すべく藝題と俳優とを嚴密に撰定して居る、則ち明治四十四年松竹に屬してより新舊兩派の名優を悉く蒐め民衆娯樂の一端には我國の固有美を失はざらんが爲め腐心の跡歴々たるものがある

辨天座は二百九十年前の創設にかゝり舊來操人形を興行した所である、而して大阪に於ける芝居の嚆矢と稱せらる現在に於ては松竹經營の下に各種の模範的演劇を行つて居る

文樂座は明治四十二年四月八日初日松竹合名會社買收第一回興行、竹本攝津大椽の語り物『先代萩御殿の段』桐竹紋十郎、乳母政岡の人形を遣ふ、斯の如く專ら人形劇を演ずる所である

大正十一年二月十五日　佛國答禮使ジョフル元帥歡迎記念『千本櫻道行』の人形を松竹合名社より記念として贈つた、而して現今に至る間常に固有藝術保存の意味にて當座は悉く形式に於ては舊慣に從ひ精神的に改革を行ひつゝあり、

朝日座は明治四十一年十二月松竹合名社が買收して、浪花座角座の如く歌舞伎劇を興行する外、高田實一派の新派劇、成美團一派が時の風潮に連れて非常に勃興した、そのうち活動寫眞の輸入に始まり流行は非常の勢ひであつたが最初福寶堂と提携して、此座を封切場として興行しつゝあるのである

角　座は明治四十四年六月初めて座主松竹合名社となり大正四年九月、平場席を椅子席に改め、一日二回興行を初む超えて大正十年十月新築大普請出來上り大阪の名士を招待し、小織桂一郎等の『新劇』一座にて柿葺落興行をなし、重に新派劇、喜劇等にて現在に及ぶ

浪花座は明治三年、松島に立派な劇場が建てられたがその頃の松島は不適當なので僅か四年間ばかり存在してゐたのみで、取壞して、繁華の中心の地に移すことゝなつた、而して明治九年道頓堀に再築されて、我座こいつたのが抑々

現在の浪花座の前身である、其の後明治二十二年初めて浪花座といふ、明治三十七年燒失後は、長らく見世物小屋などを建てゝ興行してゐたが、高木德兵衛氏が再築に着手し、明治四十三年十一月落成して浪花座と銘名し、東京歌舞伎大一座中村歌右衛門、市村羽左衛門、尾上梅幸、片岡仁左衛門、中村宗十郎等の顏振れの興行で、華々しく開場した、その頃世は稍々ともすれば徒らに浮華の巷と化そうとする傾があつた時、忽如として、茲に民衆娯樂の統一を計り以て一般の氣風と、思想の向上に努むる目的で、演劇の大トラストを組織する美舉が、白井松次郎氏、大谷竹次郎氏兄弟に依つて畫策され三大都市を手始めに、全國に亘つて劇場買收が實現された、斯くて浪花梨園を最も賑はし、演劇の趨勢の中心となつてゐた浪花座も、道頓堀の他の四座と相前後して、白井、大谷兩氏を戴く松竹合名社の經營する所となつたのである則ち大正六年三月に場内の設備を大ひに改めて、中村鴈治郎、實川延二郎、中村芝雀一座に東京の尾上梅幸を加入せしめて、開演したのが最初であつて、忠臣藏を上演して連日大入滿員續きの盛況で、其後名優相次いで演劇し浪花文化の中樞として、民衆娯樂の機關となり貢献せる遺業は頗る多い

二、八千代座

八千代座は松竹系に次ぐ大阪市の大劇場である、同座は吉田卯之助氏の主宰する所にして民衆娯樂場としては活動寫眞並に新舊劇を上演する、而も同じく八千代座と稱するもの天滿、九條、其他に座場を有し荐りに斯界に貢献するのである

第四節　演舞場

演舞場とは舞踊及び我國古來の歌趣、三味、鼓、笛等の妙味を失はざらんが爲めに斯道の啓發を試みるべく設けられたる演場であるが民衆娯樂機關と云ふよりは寧ろ斯藝の練習向上を計る機關と稱するが至當である、而して大阪市に於ては多く花柳界に設置せられ年二回若くば三回に亘り約二十日前後の開演を爲すのであるが現在には北新地、新町、堀江及び南五花街等に設けらるゝもの尤も有名である、勿論出演する者は舞妓、藝妓師匠等にして未だ社會的因襲の卑下を蒙る者であるが併し乍ら我國古來の藝術が今日僅に彼等彼等の手に於て命脈を保つ事に想到せば斯業者が演舞場を設け且つ可憐なる婦女子等が荐りに技を練るは又以て多とすべきであろう、左に現在の場並に其所演の一部を摘する

一北新地　北新地とは昔の曾根崎情話を加味する花柳界にして茲には府會議員**大西熊吉氏**等の肝煎りで北の演舞場がある尤も大西氏は市内各同業者間の牛耳を執りつゝある有力者であるが其演舞場の如きも主として固有的藝術の妙を練らする爲め頗る努力して居る、而も、同場は毎年二回其演舞會を行ふ

二新町　新町花柳街は四ッ橋の西北一帶にありて最近壯大なる演舞場を新築し毎年二回の試演を行ふ其場竣成に當つては坪内博士作の『新浦島』を演じ尚英皇儲來阪と同時に御召艦員招待の事あるや浪花藝術の一端を覽に供した

二堀江　堀江廓は新町に相對する四ッ橋南西にあり其演舞場は劇場よりも瀟洒にして而も古型を失はず毎年廓内技藝の啓發を目的として二回演藝を行ふ即ち有名なる『浪花踊』『この花踊』は此處に試演せらるゝものを謂ふのである、今其一節を採錄する

（第八回この花おさり）大正十一年春……例年題材を歴史物に採つて居る、この花踊は今年は大石良雄等赤穗義士の元

祿快舉から取材して『大石櫻』と題し十一場から成立つて居る、作歌は江上脩治郎氏、長唄作曲今藤長十郎氏、淨瑠璃作曲鶴澤燕四氏、鳴物六合新三郎氏、振付西川嘉幸氏である、而して其一節に鹽濱の旭光照波と云ふのがある其趣旨は勅題『旭光照波』に因んで大石氏等の遺業また旭日波を照らすが如く鮮かに萬世不朽なるをおもひこの場をこの踊の第一に据えたのであつて板付で踊子二十四人、金銀の扇子を翳して振をさせる

又第八回浪花踊は『賤の小田卷』を演じたが神都と題する歌曲には長唄で

一、神都（二見）、長唄『世のために立し内外の宮柱、動がぬ國の礎をこゝに堅めてつぎ〳〵にいや榮え行く秋つしま』、『御裳川のすみまさる、その瑞籬にゆふだすき、かけてぞ祈る民草の、清き心も玉くしけ、二見の浦に來て見れは卷繪に似たるむら立の、松の梢に初日の出、岩戸ながらの光冴て輝き渡る天が下』とあり之れが舞踊は可憐な妓裙が盛裝で幕が開くと天の岩戸のそれならぬ舞臺は眞黑闇でたゞ『世のために立てし内外の宮柱』といふ長唄が聞ゐる、見る〳〵裡に夜はほの〴〵と明け初めて夫婦岩の間遶りから金冠の如な初日影がぱつと大きな笑顔を見せ、忽ちにして男波女波を金色に化して黄金の浪を湧かしめ、雄大壯嚴を極めた二見の浦の神秘境を現出する、これは勅題『旭光波照』の意を現はした譯で、やがて『御裳川のすみまさる』といふ唄のところから初めて二十四人の踊子全部が左右と兩花道の四方から芽出度い輪注連と扇を手にして長閑やかに妙なる踊をするのである

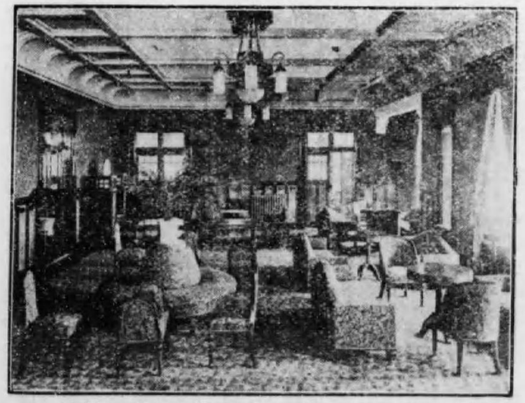
四南　街　は所謂南五花街廓を稱するもので茲に演舞場あり名物の『芦邊をどり』を演ずるのである其歌詞及身振は尤も浪花情調を示す、大正十一年四月行はれた第三十八回芦邊踊に就て一寸紹介すると往昔の浪速を序すると共に又現代の浪花をも歌ひ且つ踊つて居る即ち『中之島公園の陽春』の一節に左の長唄なぞがある

『花に聳ゆる公會堂、柳に高き市廳舍は、水の都は小波に、うつして三ッの大橋や、こゝへ北濱堂島の、中に賑はふ

中之島、さくら山咲こきまぜて、かけろふつゝじ藤の花、芝生のすみれたんぽゝに、つばなけん〳〵豆つばな、結んで見せて相乘りの、ボートの舵のごとく〳〵に、遊ぶ春日ぞ長閑なる』

新町演舞場

◇　◇　◇



新町演舞場内部

第七章　言論機關

第一節　概說

近時一般人士が著しく文化的啓發を致したので政治文學經濟其他各方面に對する發表意識が頗る發達したのである、從つて言論の自由なる國是は更に人々の間に精練せられ名實共に之れが實現を期する樣になつた、而して其組織的に實現を期するものが則ち言論機關たる新聞である、大阪市が明治維新以來我國商工都市の雄として將た亦經濟界の中心點として發達し來つた關係上文學に政治に經濟に勢ひ通報機關を必要とした事は容易に想像し得らるゝであろう、而も單に一定の律法に則る通報機關の實現後直ちに時代の要求又は大阪市自體特有の狀態を滿足せしむる爲めに漸次律法の判別を始め政經各方面の施政施設に就て改善を唱へ且つ選善の指導を目的とする言論の自由を庶幾せるは洵に當然と謂ふべきである、則ち大阪市の言論機關發達史は畢竟する所通報式に發芽し軈て財力の膨脹と市民の智能發達とに基きて批判主義的傾向を帶び再轉して商品化を伴ふに至つたのである、

然れども元來言論機關とは言論の自由を保ちつゝ公平なる立場に在りて一方に權威と正確とを期すると同時に他面販賣廣告等に因りて收益を試みなければならぬ、其使命や高尚優美乍ら所謂營業政策宜しきを得ずんば甚だ經營至難な事業である、此本義に照引せば社會現象の描寫と正鵠の判斷とを要し且つは人情の趣味に投じ時代の趨勢に先んじて一紙面の多樣多岐なるを肝要とする、故に必ずしも其一方に偏倒するものは是なりと斷する譯けに行かぬのであるが大阪市

内の新聞紙は經營者の着想と周圍に因りて全く商品化せるあり業務上の機關即ち通報式なるあり偏頗なるありて專ら新聞紙本來の使命を全ふせんとする者は是なりと雖も洵に僅少である、流石に崇高なる當該機關も要するに相對的取引を最後とする爲め只夫れ權威にのみ生きる譯けに行かぬのであろう

茲に於てか大阪市内に存立する言論の機關は經營者の立脚點と需用者の種別に因りて大別すれば二樣に岐れる、則ち一は一般的なもので他は一種事業の範圍に機關となるものである、而して更に新聞と雜誌との區別あるのみならず發刊の度數と目的とより識別する時は又日刊と週刊との相違をも有するのである

叙上の差別を有する言論機關が各々其一方に相當の勢力即ち需用者或は讀者を抱擁するは勿論であるが延ひて大阪市政に直接間接の權威を揮ひ之れが運用上指導標となるは多少の差こそあれ萬人の認むる所であろう、併し乍ら市民生活の啻に複雜なるのみならず商工業は勿論社會組織の全般に關聯する今日適切に市行政運用上の指標となり需用者の識別判斷の資料に備へらるゝものは概して日刊新聞にして而も一般に亘るものと斷ぜざるを得ぬ、彼の週刊新聞、雜誌及び一部事業の上に立脚する機關的のものは市民全般に亘らざると接觸の度數に限りある不利を以て自ら等閑に附せらるゝは否むべからざる事實である、

殊に其一般的なる新聞紙は我國政治經濟、外交其他苟も國内國際上の萬端の報道を網羅するのみならず大阪府市政に關しては殊更に擔任者を派して詳細の報道を日々にし兼ねて民衆批判の參考に資すべく欄を設けて判斷を試みて居る、從つて一般的新聞紙が需用者を多方面に開拓し併せて市行政上に貢献する所洵に甚大なのである

偖て茲に一般的新聞紙と稱するは果して如何なるものであるか、謂ふ迄もなく大阪市に於て俗に十大新聞と唱へる大阪朝日、大阪毎日、大阪時事、大阪朝報、大阪日々、關西日報、大阪新報、新日報、大阪萬朝報、大正日々新聞等である此外最近荐りに以上十新聞の古株と勢力とに加はらんとして努力しつゝあるもの十數種あり、雜誌週刊新聞等百餘種に

及ぶのである

第二節　十大新聞

大阪市に於ける十大新聞とは前節に說きたるが如く朝日、毎日、時事以下大正日々新聞等を總稱するのである、而して其組織は株式會社あり、個人經營なるありて必ずしも一樣でないが併し乍ら輿論の指導と社會的事實の報道に任ずる點は悉く一致して居る、勿論其資本の多寡規模の大小發行部數の相違は免れぬ所で從つて社勢の隆替懸隔も亦自ら岐れて居るのである、假令ば大阪朝日と大阪毎日とは其創立古き關係と資本主義的經營とに因りて東京に各々支社を有し（東京朝日、東京日々之れである）西部日本に發展し更に歐米各國との聯絡を保ちて最早世界的雄飛を試み内地には各府縣に紙數の頒布を遂げて居るに反し時事新報を除く他新聞は舞臺を近畿に限り市内を本據とするが如く種々差別がある

如斯規模の方面より區別する時は大阪十大新聞も細別して普遍的なるもの（朝日、毎日、時事）地方的のもの（朝報、大阪日々、關西日報、新報、新日報、萬朝報、大正日々）の二樣に岐れる、而して世人は多く普遍的の諸新聞を指して地方的新聞を顧みぬ傾向があるが抑も謬りたる觀察である、地方的新聞は其規模に於て前者に劣ると雖も各々特色を持つて堅固な地盤を保有し、政治、經濟、文藝等大阪市及其附近を通じて動すべからざる勢力を扶殖して居る、從つて地方的貢献は却つて前者の先驅をなして使命を果たして行くのである、然るに普遍的諸新聞に對比し廣く一般人士に接觸すべき機會少き爲め時に看過される譯けである、若し夫れ一歩を進めて小規模諸新聞の得難き誇りを摘記せば則ち普遍的新聞が餘りに整然たる組織の下にある爲め所屬社員は殆ど機械的奉仕を餘儀なく强要せらるゝに反し地方的新聞たる朝報以下は所屬員の特能を極めて自由に發揮し得られる事である、所謂背景の大を笠に着て虚名を博する事なく實力主

義を斷行し得るのである、其他數へ來れば兩者の利害得失は多々あれども本書の目的に沿はぬから省略する

以上十大新聞は大阪市を中心に天下の輿論に策源地こなつて日々に警鐘を試みて居る、時あつてか悉く結束し關西、西日本一帶の同業者を糾合して起ちては臺閣の動搖さへ惹起せしめるのである、兎に角大阪地方は東京地方に比して其政治的分野單純に而も民衆が批判力に長じて居る爲め政治的に將た亦經濟界に輿論發祥の淵源こなる譯けである、殊に東京市に於ける大新聞社は各々支局又は支社を置きて前者こ相連絡を保ち尙通信を業こする日本電報通信社及び帝國通信社等も亦其支社を設け左なきだに旺んなる言論機關の爲めに提携するので今や我國輿論の代表は大阪市に置かれるの觀がある、以下欵を分ちて各新聞を摘記する

一、大阪朝日新聞社

大阪朝日社 は創立尤も古く經營宜しきを得る爲め社運荐りに伸張し今や我國新聞界の覇を唱へつゝあるのである而して株式組織を以て國內は勿論歐米、南洋、亞細亞等到る所の主要地に通信の機能を有し紙面亦各種各方面の記事に

大阪朝日新聞社

充實する關係上世界的に讀者を有するものゝ一である、尤も國內にては多く四國、九州、中國、近畿、名古屋以西、金澤以西に勢力あり其他地方は其支店なる東京朝日紙の勢力範圍こして、政黨關係なき嚴正中立を守つて居る、

社內の陣容 は社長村山龍平、專務下村宏、諸氏の下に編輯營業の二局あり、編輯局は局長高原操君の擔任する所にして更に整理、通信、外報、經濟、社會、學藝、計畫、週刊の八部に分割される、目下の發行公稱部數は朝刊夕刊を合して五十萬である、

◇　◇　◇

二、大阪毎日新聞

東京日々新聞を姉妹紙とする**大阪毎日**は朝日紙に次ぐ古き沿革史を有して居るのであるが常に朝日新聞を目標に孜々努力し來つた應報は最近に至つて顯然現はれ發行部數に於て互角の勢ひを示し其組織施設に於ては却つて前者を凌がんとする優勢さを致して居る、則ち同社は有力なる株式組織の下に先つ高速度輪轉機を据えて設備を完成し更に適材の士を拔擢して海外國内各地に駐劄せしめ紙面の内容を充實し以て嚴正中立の立場を守りつゝ雄飛して居る

社内の組織　は本山彦一社長の下に主幹奥村信大郎、副主幹高石眞五郎兩君が專ら編輯を擔當し尙整理、外國通信内國、中部聯絡、社會經濟及學藝の七部を置きて河野三通士、福良虎雄、小室秀雄、佐藤密藏、薄田淳介の諸君が部を統轄し英文毎日、サンデー毎日は高石主筆と深江彦一君とが各々擔任して居る、營業局は局長櫻田松太郎君が專ら之れを擔當するのである

新裝の大阪毎日新聞社

三、大阪時事新報

大阪時事新報は東京時事新報の支店であるが最近の狀況より斷ずる時は却つて本店を凌駕する傾向がある、曩には合資會社であつたが大正九年六月に至り株式會社に更新し内容を整へて朝日、毎日に拮抗する事となつた、專ら支那通信の詳細と海外通信の敏速なる二大特長を武器とし着々勢力を扶殖して居る、最近に及ひては大阪毎日の創業以來多大大手腕を揮つた相島勘次郎君を總務理事に擧け曾つて遞信省中の切れ者、大學の秀才たりし法學士島田乙駒支店長と慶大出身の上杉彌一郎編輯局長及び斯界の逸物として著名なる營業局長福田寅治郎の四君が協力しつゝ大ひに内容外觀を調べ猛然と勢力を加へる事とはなつたのである、卽ち題字は左の如し

（不偏不黨）

四、大阪朝報

大阪朝報は初め故小田垣君と岡嶋現主筆とが創立したる新聞で後ち市會議員酒井猪太郎君が社主兼社長となつた新進

氣鋭の新聞である

其特色とする所は演藝と府市政記事にして殊に花柳界に牢固たる勢力を有し併せて政治經濟方面には適切なる指導を試みる點である、然して同紙は俗稱赤新聞即ち關西日々、大阪日々兩紙と共に關西言論界の横紙破りと目されて居る、社内の陣立は酒井社長、杉本又三郎副社長、三好貴次副社長の下に編輯局長岡嶋松次郎君あり傘下に和田經濟、江上社會山本政治の老巧無二の筆者を抱擁するのである

五、赤　新　聞

（關西日報、大阪日々

關西日報と大阪日々とは姉妹紙にして一括呼稱するに赤新聞と云ふのである

則ち赤新聞の稱は其用紙の赤きに因るのであるが經濟と社會記事の奇拔輕妙なるの故を以て現在は却つて有名なるもの格別なる記述をせば**關西日報**は元大阪日報と稱し明治三十七年以來經營したものゝ一つに數へられて居る、今同紙のを大正三年改題したので關西新聞界の蝙蝠安の仇名ある奇智縱横の士吉弘君の經營する所である、組織は著名な齋藤弔花主幹の下に松田編輯長、中村府政、西田市政各記者村下隆灑社會部長等の諸君が活躍して居る、又**大阪日日新聞**

は明治四十五年以來吉弘君の手で經營されたもので中途國民黨の關直彦君を擁し社長たらしめたが現在は不偏不黨となり大阪市を中心とする言論機關を以て任じて居る、組織は、上總天香君主幹で金子德伸君編輯長の下に高梨政治、猪野經濟、水島社會の各部長ありて之れを援けて居る

六、大阪新報

大阪新報は大阪市に於ける諸新聞の古參格であるが屢々經營上の變革に際會した關係上歷史の古きに反し一大飛躍を試みぬ、併し乍ら最近に入りては都新聞(東京)の經營する所となつてから急に面目を更新し花柳界に將た亦政治經濟方面に驥足を伸さんとする勢ひである題字左の如し

七、大阪新日報

大阪新日報は元繪入新聞と稱し軟派記事を特色として大ひに販路を擴めたものである、其後漸く基礎確立するや政治經濟方面にも活路を求め改題して新日報と爲し大阪市に勢力を得たものである

八、大阪萬朝報

大阪萬朝報は今や創業時代に面して居るもので荐りに內容の充實紙面の改良等に力を盡して居る、最近に於ても社債を公募し以て將來の計を樹立せんと試みた、現在にては主として各種各方面の記事に他紙の顧みぬ點に留意しつゝ巧みに發展策を講じて居るのである

九、大正日々新聞

大正日々新聞は曾つて鳥居素川君の創立したる理想的新聞であつたが其後例の大本教出口某の經營に變するや純然たる宗教新聞に化し甚だしく權威と販路とを失つた、然るに最近大本教の沒落と同時に床次前內相の末弟床次正廣工學士か主宰する事となり漸く衰退を喰ひ止め目下普通新聞として面目の一新に全力を注いで居る

十、通　信　社

茲に通信社とは原稿廣告等の通信を爲すもので内容は殆ど列記諸新聞と同樣のものである然して大阪に於ける通信社は日本電報通信及び帝國通信の兩者が覇を唱へて居る、何づれも東京に本社を有し全國的に其勢力を張り各新聞社に多方面の原稿を供給し侮るべからざる地盤を有して居るのである、

安く賣る店　買ひよき店

白木屋呉服店

大阪　堺筋

大阪第一の眺めよき展望臺で
先づ大大阪の繁華を眺め下さる
お買物は白木屋へ
白客様本位親切丁寧
何品とも潤澤で優れたのが
白木屋の特色で御座います

土木建築
請負業
合資會社
桝谷組
西區泉尾町
電話櫻川二三九九
代表社員
桝野和三郎
自宅電話三六九

サン瓦斯入電球
特長
經費節約
品質優良
光輝燦爛
本社
大阪市外大仁
大阪電球株式會社

資本金四千貳百五拾萬圓
帝國信託株式會社
社長 竹原友三郎
大阪市東區北濱二丁目
電話本局
（長三一〇四番
長三一〇五番
長三一〇六番
長三一〇七番
長一八七五番
長二九五〇番）
振替口座大阪三五四五八番

社長　山岡順太郎

日本電力株式會社

專務　池尾芳藏

安治川土地株式會社

大阪市西區八幡屋町四十三番地

宇治川電氣株式會社

社長　木村清

大大阪の繁華を御覽遊せ

遠近の山々は繪のやうに
思はず『まアいゝ景色』と仰に
なります……

……屋上庭園の一憩み

大阪の文化を御覽遊せ

内外の百貨居ながらに
整ひ、いつも流行に魁て
皆様の御出をお待ちする……

……店内の設備

大阪
長堀橋

高島屋呉服店

土木
建築

請負業

株式
會社

大林組

大阪市東區京橋三

營業目課

土木建築請負並附帶業務
一般信託並金融ニ關スル業務
物品賣買並仲介代辨業務
鑛山事業ニ關スル諸般ノ業務

松村組

本店 大阪市東區大手通壹丁目貳拾六番地
電話 東三一七番 長三一二番 三三一七番 三三五一番

支店 東京市牛込區市ヶ谷田町二丁目四番地
電話番町 長四九五八番

大阪電燈株式會社

社長　宮崎敬介

外人代表
トーマス氏

大阪瓦斯株式會社

社長　渡邊千代三郎

東洋紡績株式會社

大同電力株式會社

社長 福澤桃介

大阪支店

支店長 木村森藏

大阪商船株式會社

社長 堀啓次郎

吳服店の
權威

三越吳服店

興行物（千舟館 住吉館）（事業經營）

製材業

湯屋（桝清湯 桝谷湯）

鐵道省公認
運送業
株式會社
仲田組
（湊町驛構內）
社長 仲田太三郎

上下水道
煖房衛生
諸工事
須賀商會
（創業明治卅四年）
本店
營業所 電話本局長一八九三 三一五七
大阪市東區今橋四丁目
設計部 大阪東區伏見町四丁目 電話本局長二八一七

大正十二年一月二日印刷
大正十二年一月十日發行

不許複製

新大阪大觀奥付
定價金拾五圓

著者兼發行者 中川倫 京都市京下區東九條御靈町五
印刷者 岡本省三 大阪市西區北堀江御池通一丁目
印刷所 中村盛文堂 大阪市西區北堀江御池通一丁目

發行所 大阪市西區北堀江御池通中村盛文堂內 新大阪大觀刊行所

5T-34

57. 2. 24

終